

市内遺跡発掘調査報告書 6

平成 23 年 11 月

白石市教育委員会
(宮城県)

例　　言

1. 本書は、宮城県白石市教育委員会が平成 22 年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお、平成 23 年度事業の成果の一部も収録した。平成 22 年度の事業は国庫補助事業で事業費 2,003 千円である。
2. 土層の色調表記については『新版標準土色帖』(小山・竹原、1996) を用いた。第 1 図は国土地理院 2 万 5 千分の 1 白石・白石東部・白石東南部・大河原を複製して使用した。第 26 図、第 4 章 2 の図 1 は大河原振興事務所提供である。第 27 図は太田昭夫氏提供である。その他、白石市土地情報提供 GIS、事業主提供的測量図を用いた。
3. 検出遺構の略号は以下の通りである。

S I : 積穴住居跡 S D : 溝跡 S K : 土坑 P : 柱穴 (ピット)

4. 本事業の調査実施は白石市教育委員会生涯学習課日下和寿、櫻井人が担当した。報告書本文執筆は日下が担当した。資料整理は岡部とき子、吉田佐智子、吉田真理子、村上昌雄、荒木とよ子、佐藤智子があたった。資料整理作業は資料整理室 (白石市郡山字寿山 5-3) で実施した。
第 4 章は株式会社加速器分析研究所、古代の森研究室 (古川純子) が分析執筆した。
5. 発掘調査の実施、報告書作成にあたっては宮城県教育庁文化財保護課、大河原振興事務所、白石市文化財保護委員会をはじめとする次の機関・個人からご協力をいただいた。(敬称略)

縄文土器 千田和文、神原雄一郎 (盛岡市遺跡の学び館)

相原淳一 (東北歴史博物館)、押切智紀 (山形県立博物館)

土師器、須恵器 石本 弘 (白石市文化財保護委員)

中近世陶磁器 佐藤 洋 (仙台市教育委員会)、藤沢敦、菅野智則

白石浩子 (東北大学埋蔵文化財調査室)

写真撮影 君島武史 (北上市立埋蔵文化財センター)

秋山駿、上西智樹、佐藤隆哉、柴田悠作、高橋泉理 (白石中学校職場体験学習)

松野彰悟 (東北学院大学インターンシップ)、各事業主、山崎広

6. 市内遺跡発掘調査報告書 5 の訂正、1 頁 11 行目、ずみ→づみ、11 頁 7 行目、昨年度末→一作年度末、18 行目、この箇所は須恵器がやや多かった→削除、32 頁 No39、址→跡、No50、新築県→新築業、34 頁 No90、弥陀内→弥陀内、37 頁 No172、年年度→年度、No180、都山→郡山、39 頁 No229、郡山字沢山→郡山字虎子沢山、40 頁 2 行目、しょうご→しょご
7. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

目　　次

例　　言	1
第 1 章 平成 22 年度における埋蔵文化財調査概要	2
第 2 章 白石市周辺の埋蔵文化財	4
第 3 章 平成 22 年度における発掘調査結果	10
第 4 章 自然科学分析	38
第 5 章 まとめ	43
引用参考文献	43
写 真 図 版	45
抄　　録	62

第1章 平成22年度における埋蔵文化財調査概要

平成22年度における確認調査等箇所は第1表にまとめた。今年度は発掘調査（事前調査）1件、確認調査16件、工事立会12件、試掘調査2件、慎重工事1件となっている。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ないと、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。

平成22年度の確認調査及び工事立会のうち、14件では遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ぼない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。また、地形的な特徴等をふまえ、埋蔵文化財が発見される可能性のある箇所においては任意の試掘調査を実施している。

志在家遺跡は工事立会を継続した。大畠遺跡地点①は昨年度の確認調査、今年度の工事立会結果をまとめて掲載した。砂押遺跡では遺跡範囲確認のための調査が実施された。中ノ在家遺跡は、市道拡幅工事に伴い確認調査を実施し、遺構、遺物が確認されたことから、発掘調査を実施したものである（別途報告済み）。

古くから市街地化された本郷遺跡は、これまで遺物、遺構分布は不明であったが、確認調査の結果、JR白石駅西側地区でも土師器の出土が確認された。付近には古代の遺構が拭がっている可能性が高い。15番、29番の箇所では土師器が出土したものの、明確な遺構は確認されなかった。19番の大畠遺跡、24番の鴨内遺跡では表土から陶磁器が発見された。柿宮内遺跡では、貸家建築に伴う確認調査で土師器、陶磁器が出土した。隣接する箇所は3月に確認調査を実施したが、遺構、遺物とも確認されなかった。

矢ノ口一里塚は、宮城県教育委員会による歴史の道調査事業時に、一里塚の存在が指摘されていたものである。今回、測量調査を実施した結果、一里塚と認定することができた。鷹巣古墳群（34号墳）隣接地は古墳群に近く、墳丘が削平された古墳が所在する可能性があることから、事業主の協力を得て、試掘調査を実施したものである。三部山遺跡では工事立会が実施された（第28図）。

片倉家御廟所は、片倉家によって平成20年度に石垣解体修理が行われたが、その際、埋蔵文化財の出土が予想されたため、任意の工事立会を実施していた。その後、周囲に地形変更がみられ、廟所造営に関わるものと考えられたことから、地形測量を実施し、埋蔵文化財としての保護を検討したものである。

白石城跡周辺では県立高校統合に伴う工事立会、確認調査等が相次いだ。白石女子高校跡地は、絵図上では三の丸跡で重臣の屋敷地となっていたことから、遺構の有無を確認するための試掘調査を実施した。

馬牛沼遺跡は護岸等工事に先立ち、沼の水抜きが行われた際、沼底を踏査し、遺物を発見したものである。また、以前から沼底に埋没林があることが指摘されていたことから、試料採取を実施した。

遺跡地図整備では福岡深谷及び大鷹沢大町地区の訂正作業を継続した。市街地から離れた遺跡については、届出なしで土木工事が行われるケースがあることから随時、現地確認、遺物の表探を行った。新規登録遺跡は1件であった。

No	遺跡名	遺跡番号	対応内容	所在地	調査原因	調査期間
1	地蔵院跡跡	02172	工事立会	川原字鹿田61-1ほか	新幹線駅対策工事	平成22年2月21日～4月7日
2	大沢遺跡	02262	工事立会	宇多原88	宅地造成	平成22年4月13日
3	白石城跡	02197	工事立会	沢端町7-5地内	白石女子校校舎解体	平成22年4月15日～7月8日
4	三郎山遺跡	02325	工事立会	福岡長崎丁三郎山4番8	土留工事	平成22年5月14日
5	矢ノ口一里塚	02247	確認調査	大曽根大町字矢ノ口	埋蔵文化財の有無確認	平成22年5月17日～27日
6	砂押遺跡	02297	確認調査	大鷹崎大町字砂押152ほか	埋蔵文化財の有無確認	平成22年3月18日～5月17日
7	大塙遺跡	02262	確認調査	宇人塙167-6	個人住宅建設	平成22年5月19日
8	片倉家算盤所	—	確認調査	福岡市中字愛宕山	測量調査	平成22年6月2日～3日
9	中ノ在家遺跡	02417	確認調査	越原平字中ノ在家	市道拡幅工事	平成22年6月1日～10月1日
10	中ノ在家遺跡	02417	発掘調査	越原平字中ノ在家	市道拡幅工事	平成22年6月7日～10日
11	取下遺跡	02081	確認調査	福岡深谷字下門1-1ほか	個人住宅建設	平成22年6月18日
12	松田遺跡	02094	工事立会	相模深谷字松田80-11	駐車場建設	平成22年6月22日
13	白石城跡、兀山遺跡	02197, 02114	確認調査	福岡市5-15地内	白石高校連絡通路建設	平成22年7月6日～11月11日
14	孙宜内遺跡	02430	確認調査	宇佐内宜内55-5ほか	貸ண建	平成22年8月3日～4日
15	本郷遺跡	02121	確認調査	宇佐前22番3ほか	個人住宅建設	平成22年8月20日
16	魔羅古墳群 (341号墳)隣接地	02006	試掘調査	魔羅寺字入屋敷62ほか	古墳の所在確認	平成22年8月20日
17	前船跡	02165	工事立会	沢端町1-21ほか	法面崩壊対策工事	平成22年9月13日～10月7日
18	白石城三の丸跡	02448	試掘調査	沢端町7-5ほか	埋蔵文化財の有無確認	平成22年10月12日～19日、 平成23年3月7日～9日、7月19日～22日
19	大畠遺跡	02262	工事立会	千姫寺今71-13ほか	個人住宅建設	平成22年10月25日～26日
20	手田屋敷遺跡	02123	工事立会	緑が丘2-23	個人住宅建設	平成22年11月1日～2日
21	穴前溝跡	02279	確認調査	糸山字穴ノ前35	個人住宅建設	平成22年11月4日～平成23年1月6日
22	上久保遺跡	02378	確認調査	上久保3-34	個人住宅建設	平成22年11月10日
23	馬牛沼遺跡	02449	確認調査	糸川字馬牛	埋蔵文化財の有無確認	平成22年11月22日～29日
24	鳴出遺跡	02078	確認調査	福岡深谷字鳴内	個人住宅建設	平成22年11月22日～平成23年1月24日
25	人相遺跡	02262	工事立会	宇佐星敷前25-6	駐車場施修工事	平成22年11月25日
26	新野跡	02165	工事立会	南町24-1, 24-18	貸ண建	平成22年11月30日～12月1日
27	三郎山遺跡	02325	工事立会	福岡長崎字三郎山225ほか	焼壳住宅建設	平成22年12月9日～継続中
28	大網遺跡	02051	確認調査	福岡八戸字大網前4-1	携帯電話基地局設置	平成23年2月16日
29	木棚遺跡	02121	確認調査	柳町16	西倉建設	平成23年2月7日
30	松田遺跡	02094	工事立会	福岡深谷字松田66-1	仮設資材置き場建設	平成23年2月23日～24日
31	孙宜内遺跡	02430	確認調査	宇佐内宜内56-6ほか	範囲確認調査	平成23年3月29日～30日
32	志在家遺跡	02359	工事立会	大鷹沢三-3字志輪18ほか	資材貯置等建設	平成21年10月22日～継続中

第1表 平成22年度 埋蔵文化財調査一覧

平成23年3月11日午後2時46分発生の東日本大震災によって、太平洋沿岸の自治体は甚大な被害を受けた。これらと比較して内陸の白石市は被害が少なかったものの、市内遺跡調査事業は停止せざるをえなかった。遺物を保管していた倉庫は、幸い1月に瓦屋根からトタン葺きに更新したばかりで、被害から免れることができたものの、資料整理室主屋は本構倒壊、土器の破損等の被害があった。

地震直後から文化財係員である日下、櫻井はそれぞれ、震災対応業務に従事した。生涯学習課が事務所を置く中央公民館は指定避難所であり、日下は避難所業務で夜勤、櫻井は地震翌日から給水車運転手となり、文化財業務が停滞した。しかしながら、3月下旬には2名とも文化財業務に時間を割くことができるようになった。

第2章 白石市周辺の埋蔵文化財

白石市では埋蔵文化財包蔵地として、404箇所が登録されている。周辺の埋蔵文化財の概要を説明する。

旧石器時代の遺跡は高野遺跡、戸谷沢遺跡、小菅遺跡等があるが（片倉ほか1976、佐久間2004）、何れも旧石器時代終末期に属するものである。現在のところ、確実な前期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代草創期の遺跡については不明な点が多いが、断片的な資料がある。隣の七ヶ宿町小梁川東遺跡では微隆起線文土器が出土している（真山1985、佐川ほか2005）。白石市北部の福岡深谷の鳴内遺跡では爪形文の可能性がある土器が1点発見されている（第2図4）。この土器は故中橋彰吾文化財保護委員長が1969年に表探していたものである。採取地点が略図で残されていたことから、現在の鳴内遺跡と判断したものである。爪形文土器がまとまって出土している岩手県盛岡市大新町遺跡のものと比較すると（千田ほか1987、神原2009）、金色ウンモが胎土に含まれないこと、器壁が厚い点が相違点としてあげられる。胎土に纖維混入とは言えないものの、植物断片が含まれている点は共通している。また、山形県高畠町一ノ沢洞窟遺跡、日向第I洞窟遺跡（佐々木1971）のものと比較すると共通点もあるが、相異点もある。これらの洞窟出土の爪形文にはかなりのバリエーションがある。

同じ深谷地区にある松田遺跡では縄文時代早期の竪穴住居跡が3棟、竪穴状遺構が2基発見され、押形文土器が出土している（丹羽1982、土岐山1982）。藏王連峰東斜面には下川原子A遺跡（白石地域文化研究会1982）があり、一定範囲の分布が確認できる。

前期の遺跡は上高野遺跡（後藤1984）、正人塙遺跡（片倉ほか1976）があるが、大木4式及び5式期の遺跡は少ない。中期になると遺跡数が増加し、七ヶ宿町小梁川遺跡（村田1987、相原ほか1986）では、ロングハウスを含む集落が発掘されている。遺物包含層からは大木6～8b式までの遺物が大量に出土している。同町大梁川遺跡では大木9～10式期の復式炉を伴う良好な状態の住居跡が発掘されている（相原1988）。中期末は背生田遺跡で15棟の集落跡が確認された（丹羽ほか1982）。後期前葉頭は藏王町二屋敷遺跡（加藤1984）で大規模な包含層、配石遺構が発掘された。後期から晩期にかけては藏王町山田沢、下別当遺跡で良好な遺物が発見されている（片倉ほか1976）。

弥生時代の遺跡は青木遺跡、薬師堂遺跡が知られている（伊藤1960、石川2009、設楽2008）。どちらも再葬墓と考えられているが、近年、藏王町鍛冶沢遺跡で良好な遺構が確認された（千葉ほか2010）。弥生前期の再葬墓と縄文晩期の掘立柱建物跡群が発掘されている。和尚堂遺跡では弥生中期の管玉を伴う土坑墓2基、旧河道が発見され、市内では初めて、発掘調査において石庵丁、大型蛤刃石斧（第3図1）、板状石器が出土した（日下、櫻井ほか2009）。石庵丁はこれまで、弥陀内遺跡資料（第2図3）を初めとする表探資料しか知られていなかった。また仙台平野以外において、石庵丁と板状石器がセットで確認された例として貴重である（佐藤2010）。

古墳時代になると、遺跡は平野部周辺に多く立地するようになる。塙釜式期の竪穴住居跡は梅田遺跡で確認されている（遠藤、清野1984）。鷹巣古墳群は前方後円墳と円墳から構成され、中期から後期にかけて造営される。12号墳、18号墳から発見された埴輪にはヨコハケが施文され、これに注目した



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	茶園遺跡	散布地	縄文前、平安	13	白石城三の丸跡	城館	近世
2	陰陽山廻跡	陣屋、城郭	中世、近世	14	丸山遺跡	散布地、墓跡、城館	縄文中、古代、中世
3	八幡坂遺跡	塗跡	古代	15	弥治内遺跡	散布地	明治、平安
4	八幡坂西塗跡	散布地、陣塁跡	古代、近世	16	新宮内遺跡	散布地	奈良、平安
5	前山遺跡	散布地、廻跡	古代	17	鶴岡崎遺跡	丘陵	古墳後～平安
6	新館跡	城郭	中世、近世	18	大塚遺跡	散布地、官衙	明治～中世
7	白石会所跡	廻紋跡	近世	19	木郷遺跡	散布地	古代
8	中寺前塗跡	散布地	古代	20	駒塚遺跡	集落	弥生、古墳
9	三瀬山遺跡	散布地	縄文早、前	21	廢里古墳群	前方後円墳、円墳	古墳、古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前、中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文～古代
11	曾生田遺跡	集落	縄文前～後、弥生	23	白石秦里刺跡推定地	水田跡	古代、中世
12	白石城跡	城郭	近世	24	和田堂遺跡	散布地	縄文後、古代

第1図 遺跡地図

研究がなされている（東影 2009）。横穴墓は郡山横穴墓群が知られ（中橋 1972）、昭和 45 年に測量調査が行われている。石製模造品は市内での出土例が少ないが、近年、和尚堂遺跡において発見されている。

奈良、平安時代になると全市的に遺跡数が増加する。特に 9 世紀代になると東北地方全体で、遺跡数、生産遺跡の増加が指摘されている（坂井 2008）。市内でも 9 世紀代の遺跡数は増加する。最近になって会津若松市の大戸窯製品が市内で確認されるようになった（佐藤 2011）。瓦窯跡は刈田郡街跡と推定される大畠遺跡へ瓦を供給した兀山窯跡がある（片倉ほか 1976）。ここから発見された瓦（第 3 図 2、3、写真図版 16-5、6）は福島県相馬市黒木田遺跡のものに類似しているとの指摘がある（佐々木ほか 1985）。須恵器は八幡坂遺跡において生産が行われ（菅原ほか 2009）、大畠遺跡への供給が行われている。

平安時代末の 12 世紀代に関する遺物は、最近、わずかながら増加している。弥陀内遺跡、大畠遺跡（日下 2008）で、発掘調査によって断片的な資料がみられた。斎川沿いの梅田遺跡でも 1 点出土している（第 3 図 4）。

中世は城館と生産遺跡である窯跡が多い。城館は市内に 60 箇所確認されている（中橋 1987）。白川大卒都婆の東北、一本杉窯跡では大規模な中世陶器窯跡が発掘されている（菊地 1996、藤沼 2010）。13 世紀後半から 14 世紀前半にかけて操業されている。大甕、摺鉢、碗、五輪塔等を生産していた。北条氏得宗領との関連が指摘されている（岡田 1994）。

近世は白石城跡があり、復元工事に先立つ発掘調査で、三階櫓跡、大手門跡、石垣等の遺構のほか、大量の陶磁器、瓦片が発見されている。生産遺跡は鍋石窯跡、萩の坂窯跡、瓦焼き場窯跡（片倉 1976、中橋ほか 1979、芹沢 1981、藤沼 1996、相原 2000）がある。

このように各時代に特徴的な遺跡が存在する白石市であるが、その保護調整は決して順調に推移したわけではなかった。昭和 40 年代後半から昭和 50 年代半ばまでは発掘調査、報告書刊行、各種保護周知施策が計画的に実施されたものの、その後、この動きは継続せず、平成 14 年頃まで埋蔵文化財行政全般は低迷した。

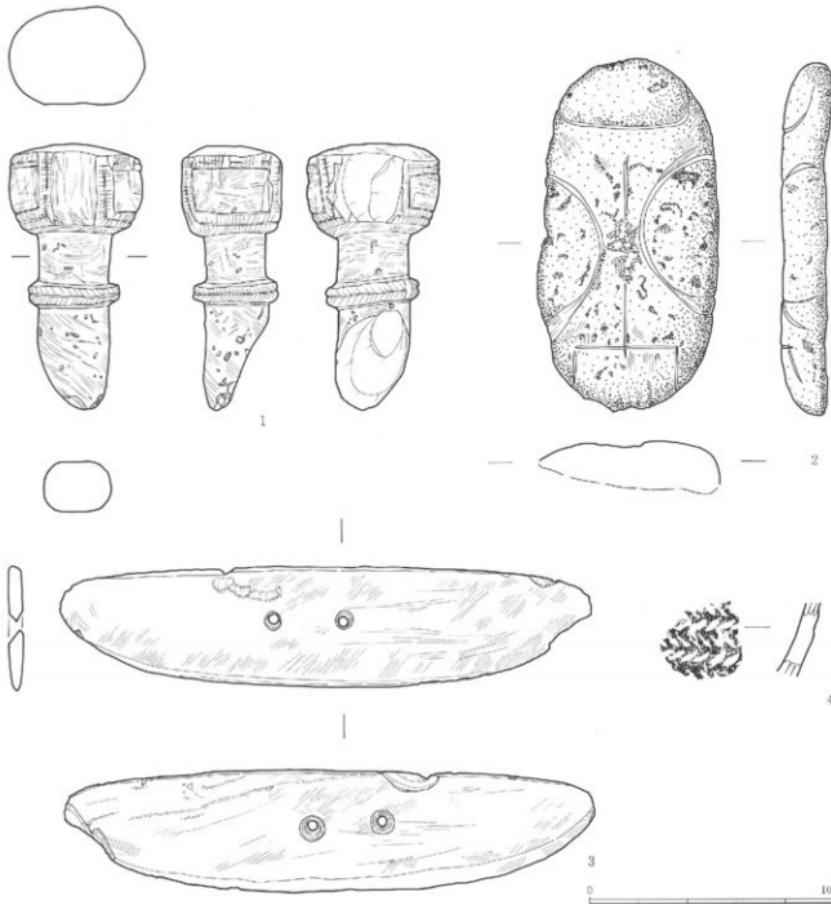
第 2 表には埋蔵文化財届出通知一覧を掲載した。この表からも分かるように個人住宅建設、公共事業に伴う届け出、通知が徹底されていなかった時代が長く続いていた。また、試掘確認調査経費についても、市による予算措置がだいぶ遅れ、事業主負担の時代が長く続いていた。国庫補助金（国宝重要文化財等保存整備費補助金）を継続的に交付を受けるようになったのは平成 20 年度からであった（第 3 表）。

第2表 埋蔵文化財届出等件数推移表

年度	西暦	92条	93条	94条	96条	97条	99条	合計
55	1980		3	6			3	12
56	1981		4	6			6	16
57	1982			2				2
58	1983		1				1	2
59	1984		1	1			2	4
60	1985		2	1			1	4
61	1986						4	4
62	1987		1				1	2
63	1988		0	0			0	0
1	1989		1				2	3
2	1990		1	1			3	5
3	1991			2		1	5	8
4	1992		4	5		2	9	20
5	1993		7	2			6	15
6	1994		14	7			10	31
7	1995		7	4			8	19
8	1996		6	5			11	22
9	1997		9	5				14
10	1998		8	6			2	16
11	1999		28	4				32
12	2000		14	7			8	29
13	2001		12	8			12	32
14	2002		19	3			17	39
15	2003		23	9			14	46
16	2004		22	10			11	43
17	2005		38	22		2	23	85
18	2006	1	36	14			7	58
19	2007		24	4		1	14	43
20	2008		23	5		1	13	42
21	2009		16	3		2	8	29
22	2010		17	4			12	33

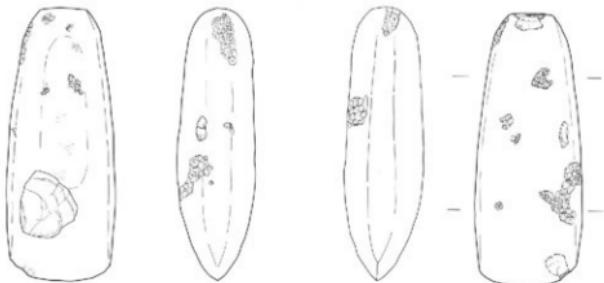
第3表 国宝重要文化財等保存整備費補助金実績一覧

年度	西暦	事業名	事業総額	内 部		
				国 庫	県補助	市町村負担
50	1975	伝統的建造物群保存地区対策調査と保存対策	1,600	800	400	400
52	1977	観音寺遺跡範囲確認調査	4,000	2,000	1,000	1,000
55	1980	谷津川遺跡地盤振溜盒	2,000	1,000	500	500
5	1993	小原のヒダリマキガヤ樹勢回復	2,774	1,385	692	697
16	2004	市内遺跡発掘調査会等	1,048	524	209	315
20	2008	市内道路発掘調査等	2,038	1,000	0	1,038
21	2009	市内遺跡発掘調査等	2,003	1,000	0	1,003
22	2010	市内遺跡発掘調査等	2,003	1,000	0	1,003

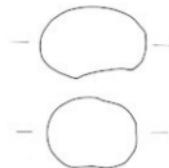


図版番号	種別	出土位置、層位	考
2-1	石環	白石市周辺	網目彫脊が方形に配置され、全体に捺痕あり。『磨石縄頭』の注記あり。残存長10.8cm、幅6.5cm、厚さ4cm、重226.8g。白石高校蔵、宮城県史第34巻1437 写真図版17-1, 2
2-2	岩鏡	白石市周辺	上端に方形区画、両側に反対面は穴掛、長さ14.4cm、最大幅7.3cm、厚さ3cm、重量273.9g。白石高校蔵、宮城県史第34巻1404 写真図版17-3
2-3	石鏡	浮院内遺跡	全体に捺痕、一部に欠損あり。紐孔は東西方向からあけられている。紐孔には孔ズレが著しい。長さ21.6cm、最大幅4.9cm、最大厚0.8cm、重量128.3g。「郡山○○地下三尺[ノ]底盤」の墨書き、宮城県史第34巻1831 写真図版17-6, 7
2-4	墨文土器	鳴内遺跡、表抜	1969年に中横彫合表抜、爪彫が5段にわたり、交差に施文されている。色調は茶褐色である。内面はテナ、黒褐色である。石英等を比較的多く含む。胎土は微密である。 写真図版17-4

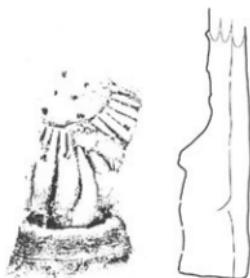
第2図 市内遺跡出土資料(1)



1



3



2



3

0 10cm
1のみ (S=1/3)0 10cm
1以外 (S=1/2)

4

図版 番号	種 别	出土位 置 番 号	特 権	備 考
3-1	太腹輪刃石斧	和南畠遺跡、 J13区、9号	長さ 16.8cm、最大幅 6.6cm、 最大厚 4.8cm、重量 825.3g。 報告書第 38 図 2	
3-2	軒丸瓦	兀山遺跡、 表様	花弁、裏面は灰褐色、表面か らみえる内部は茶褐色である。 白石市史考古資料集 117-1	写真図版 16-6
3-3	軒丸瓦	兀山遺跡、 表様	花弁、表面は黒褐色、底土は 灰褐色、白石市史考古資料集 117-2	写真図版 17-8
3-4	中良陶器	海田遺跡、 CG-7、3層	表面 V 字の沈線 2 本、内面は ヨコナデ、凹凸あり。案清? 臺、12 世紀代	写真図版 17-5

第3図 市内遺跡出土資料(2)

第3章 平成22年度における発掘調査結果



第4図 大烟遺跡調査区位置図

遺構が発見された調査を中心に、平成23年度調査結果の一部も掲載した。なお、中近世陶磁器の詳細は原則として一覧表に一括掲載、当該遺跡及び分布調査の関連資料も掲載した。

1 大烟遺跡

地点①

県遺跡番号 02262

遺跡略号 OH

所在地 白石市字東大烟88番

調査要因 宅地造成

調査期日 平成22年3月8日～4月13日

調査面積 1,261m² (掘削面積 24.24m²)

大烟遺跡は古代刈田郡衙跡と考えられる遺跡で、これまで国道建設に伴う発掘調査、個人住宅建設に伴う確認調査が実施されている。

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北東へ約0.6kmの箇所にあり、現況は水田である。

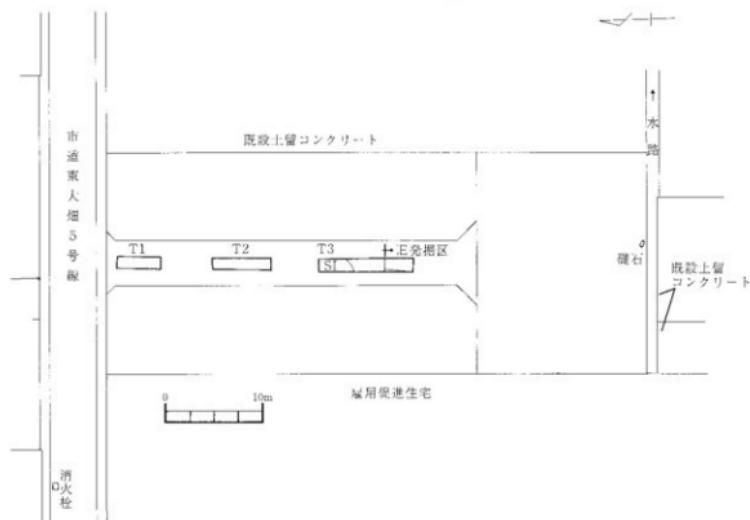
今回、宅地造成に伴う確認調査、工事立会を実施した。この箇所は平成3年頃にも確認調査が実施されている箇所である。この時の調査では礎石建物跡、掘建柱建物跡、溝跡、土師器、須恵器、瓦等が出土した。

前回の発掘調査結果を踏まえ、事業予定地中央に設置される道路敷に確認調査トレンチ3カ所を設定した。トレンチ1、2(T1、2)の第1～3層で土師器等が出土したが、遺構は確認されなかった。トレンチ3では、竪穴住居跡1棟と前回の発掘調査区が確認された。住居跡からは多量の土師器、少量の須恵器が出土した。土師器には壺、高壺があり、栗団式～国分寺下層式と考えられる。また、基本層位3層からは瓦が出土した。竪穴住居跡は3層上面で確認された。埋土は10YR4/1褐色粘土質シルト、5cm以上で炭化物を多く含んでいた。T3の前回発掘区北壁断面における基本層位は次のとおりである。第1層、10YR6/1褐色粘土質シルト、水田耕作土、15cm、第2層、10YR6/8明黄褐色粘土、水田底土、17cm、第3層、10YR6/3にぶい黄橙色シルト、20cm、第4層、10YR4/1褐色粘土質シルト、21cmであった。前回発掘区の最終発掘面には2～5cmの山砂が敷かれていた。

事業地南端の掘削を伴う土留め箇所の工事立ち会いを実施した。掘削箇所中央の土層は次のとおりである。第1層、水田耕作土、青灰色、35cm、第2層、水田耕作土、茶褐色土、8cm、第3層、黄褐色山砂、5cm、第4層、暗褐色シルト、18cm以上であった。第3層は以前の発掘調査時の埋め戻しの山砂と思われる。北壁では約6.4mほどの長さが確認された。

礎石建物の礎石1個が発見された。掘削箇所の中央（事業用地南東隅から8.8mの箇所で石の東端）で東西80cm、南北54cmほどの大きさであった。南東に接して3つの石が密着していた。礎石上面は、コンクリート水路上端から46cmほど下で発見された。礎石から西の箇所で、瓦片、掘削土から陶磁器片を発見した。

また、大烟遺跡周辺の土地区画整理事業は昭和56年から実施されているが、事業完了前と直後の風景写真が教育委員会に残されており（『大烟遺跡現状写真集』）、一部を掲載した（写真図版7-1～4）。この区画整理に伴う昭和57年3月の確認調査写真を参考として掲載した（写真図版7-5～7）。



第5図 大烟遺跡地点① 調査区位置図



第6図 矢ノロ一里塙位置図 (1/25,000)

2 矢ノロ一里塙

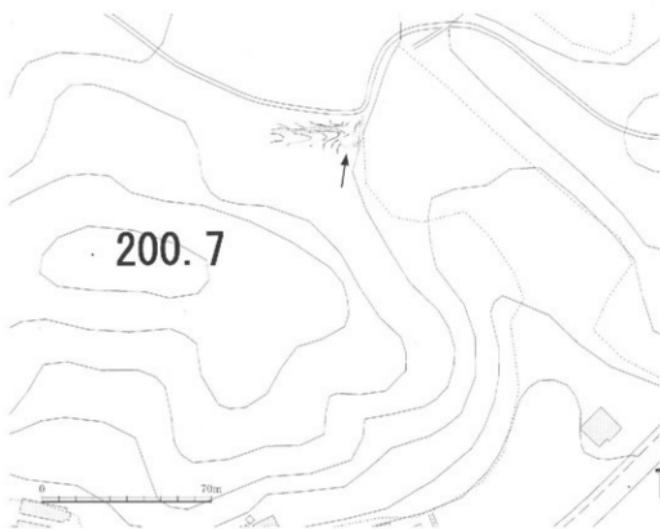
県道跡番号 02247

所在地 白石市大鷹沢大町字矢ノロ

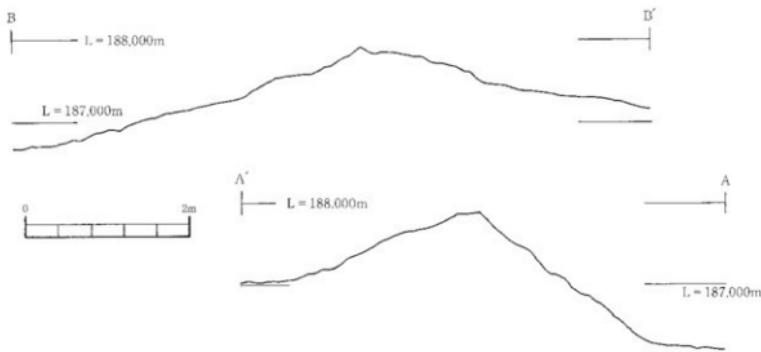
調査対象面積 624m²

調査期日 平成22年5月17日～5月27日

矢ノロ一里塙は、東北新幹線白石藏王駅から東へ4.8kmの山地にあり、現況は、杉林と草地である。この一里塙は、宮城県教育委員会による歴史の道調査事業（風間1981）の時に存在が知られていたもので、白石と角田間の街道にある。今回、測量調査を実施し、埋蔵文化財としての保護措置を検討した。歴史の道調査事業時に確認されていた塙と落雷で焼けた老松切株の現存を確認できた。調査結果を受け、遺跡登録を行っている。



第7図 矢ノロ一里塙位置図

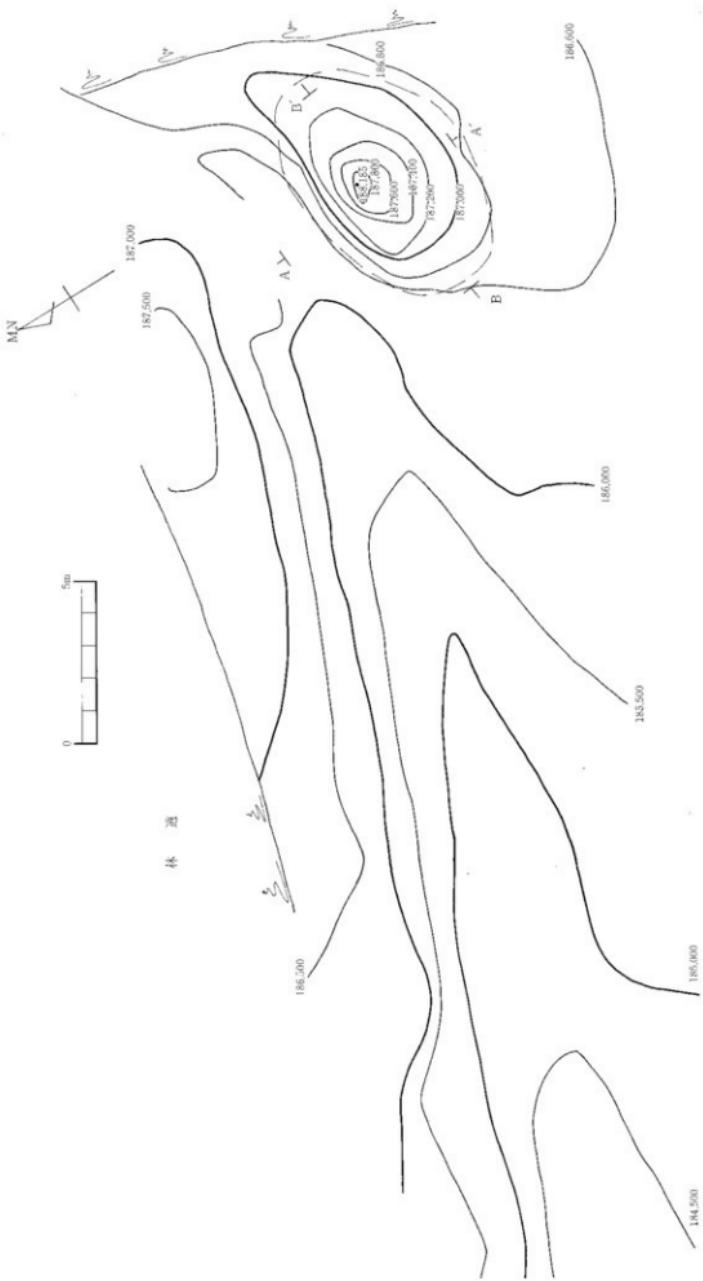


第8図 エレベーション図

塚の平面形は円形ではなく、長楕円形である。東西8m、南北5mの規模で、高さは道路底面から1.6mである。裾部南側一部に地形変動がある。現存する他の一里塚と比較すると規模が小さい。道路跡は幅4m、長さ38mほど確認されたが、更に西側の藪中に続くようである。反対側の塚は確認できなかつた。

林道を挟んで、塚の北側にある碑には次のように記されている。「馬頭観世音 寛政六年甲寅 三月十七日 □□丹口」とあり、赤彩されている。高さは68cmであった。西暦1794年のものである。

第9図 矢ノ口一里塙と周辺地形図



3 墳下遺跡

県遺跡番号 02081

所 在 地 白石市福岡漆谷字関下 5-1, 5-6

遺跡略号 セキ下

調査要因 個人住宅建設

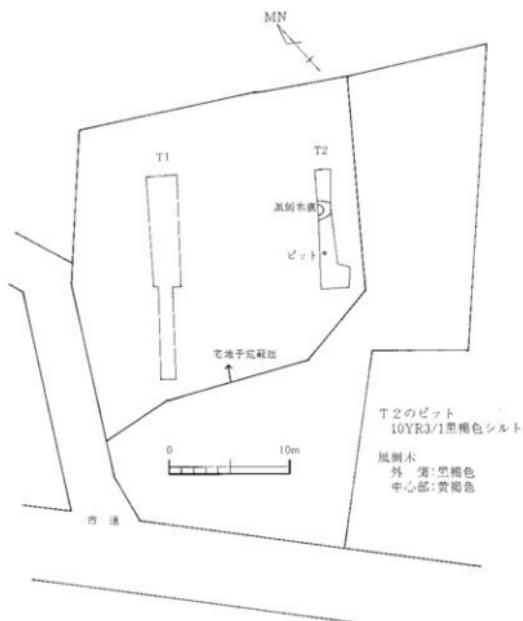
調査期日 平成 22 年 6 月 18 日

調査面積 520m² (掘削面積 45.45m²)

今回の箇所は J R 東日本東北本線白石駅から北へ約 5.1km の緩やかな丘陵上にあり、現況は畠地である。塙下遺跡は縄文及び古代の遺跡として登録されている遺跡であり、地表には多くの剥片、土器片が散布していた。個人住宅建設にあたり、耕作物を避け、確認調査トレンチ 2 箇所を設定した。

T 1 の基本層位は次のとおりである。第 1 層、表土、10YR6/3 にびい黄橙色シルト、層厚 20cm、土師器、ビニール片を含む、第 2 層、10YR7/8 黄橙色粘土質シルト、直径 70cm 以上の礫を含む、40cm 以上であった。T 2 は第 1 層、表土、10YR4/1 深灰色シルト、繩文土器を含む、26cm、第 2 層、10YR3/1 黒褐色シルト、33cm、第 3 層、10YR8/3 浅黄橙色シルト、5cm 以上であった。時期不明の直径 15cm のピット 1 基が発見されている。第 1、2 層から繩文土器、土師器が少量出土した。また

第 3 層上面で風倒木痕 1 基を確認した。堆積土から繩文土器、剥片が出土した。トレンチ中央において、小蝶が多い箇所があった。事業地の西側は以前の農地整備で削平を受け、東側は盛り土された箇所であると考えられた。



第 10 図 墳下遺跡トレンチ配置図

4 白石城跡

県遺跡番号 02197

遺跡略号 SJ

所 在 地 白石市益岡町 55-15 地内

調査要因 連絡通路建設

調査期日 平成 22 年 7 月 6 日～11 月 11 日

調査面積 80m² (掘削面積 1248m²)

今回の箇所は JR 東日本東北本線白石駅から西へ約 0.9km の丘陵上にあり、現況は学校用地（グランド）である。白石城跡は中世から近世の城郭跡で、これまで城復元に伴う発掘調査等が実施されていた。今回の事業地の一部は兀山遺跡にも該当している。

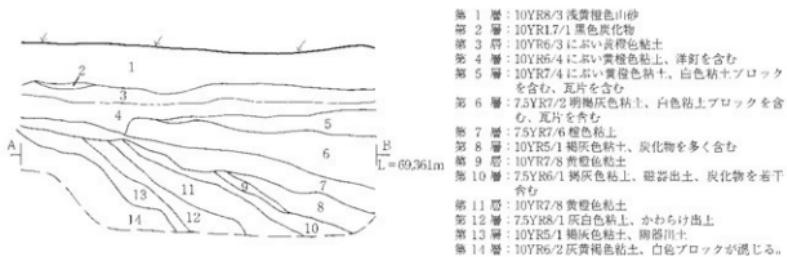
今回、連絡通路の橋脚基礎が設置されることから確認調査を実施した。調査は室内練習場基礎、雑物を避けながら行った。トレーニングは 3 箇所設定した。T1 では近代以降の整地、盛土層が確認された。地層は東側から西側へ傾斜していた。陶磁器、瓦片が 5、6 層、10、12、13 層から出土した。柱穴等は確認されなかった。4 層からは洋釘 1 本が発見された。第 6 層以下が西へ傾斜しているが、白石城築城にかかるものではない。確認調査後、工事立会において、鉛製の小柄 1 点が発見されている。T2 では黄橙色山砂が堆積していた。T3 は白石城中ノ丸跡の土星裾部である。第 1 層、10YR5/2 灰黄褐色土、山砂を所々に含んでいた、30cm、第 2 層、10YR6/8 明黄褐色粘土、盛り土層である。白色、黄色ブロックが多く混じる、20cm 以上である。遺物は出土しなかった。その他の工事立会箇所では、遺構、遺物は確認されなかった。



第 11 図 白石城跡位置図



第12図 白石城跡地点① 確認調査トレーンチ配置図



第13図 T1南壁セクション

5 白石城三の丸跡

県遺跡番号 02448

遺跡略号 S J

所在地 白石市沢端町7-5地内

調査要因 グランド整備工事

調査期間 平成22年10月12日～19日、平成23年3月7日～9日、7月19日～22日

調査面積 13,187m² (掘削面積 858.79m²)

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北西へ約0.9kmの段丘上にあり、現況は学校跡地である。白石城跡は中世から近世の城郭跡で、これまで城復元に伴う発掘調査等が実施されていた。県指定文化財の片倉家・武家屋敷旧小関家は、今回の箇所の北側に所在している。

安政年間の白石城下絵図では、今回の箇所は白石城三ノ丸に該当し、標高の高い家臣団の屋敷地、馬場等になっている。

今回、グランド造成工事に先立ち、埋蔵文化財の有無を確認するため、調査を実施した。トレントは合計 22 箇所設定した。その結果、過去に校舎等が建っていた箇所は、過去の掘削により遺構は破壊されていることが判明した。一方、グランドとして使用されていた箇所は遺構、遺物が確認された。T12、13、18、19、20、21、22 ではピット、土坑、溝、陶磁器、瓦片、金属製品が発見された。T5、8、10、11、14、15 などで近世陶磁器が発見された。

安政年間絵図に描かれた南北の溝、土壙は確認されなかった。明治中期以降の学校用地造成等により既に破壊されたものと推定される。

学校跡地の東側から確認調査トレント 5 箇所を設定した。一部を除きほとんどが搅乱で、1.3 m 程が埋め戻された土であった。トレント 1 では、北端において搅乱されていない土層が確認された。また、砂が埋土の直線的な掘り込みが確認されたが、遺物はなく、時期が不明であることから新しい可能性がある。

T2、3、4 では搅乱が著しかった。T4 付近で巴文瓦片を採取した。

T5 では、東側が搅乱で、西半分は一部できちんとした土層（2 層）が確認された。この土層からは近世と思われる陶磁器がややまとまって出土し、炭化物も含まれている。西側半分は、搅乱が交差に入っていた。搅乱は 2 層、3 層、砂疊層を切って堆積している。

T6、7 は搅乱が著しかった。T8 では一部で土層が確認され、陶磁器が若干出土した。炭化物も混じっていた。T8、10 の搅乱部において、近世に属すると思われる陶磁器が発見された。

T9 では一部で上層が確認され、炭化物が含まれていた。T10 では、搅乱が著しかったが、黄褐色砂層、土層が一部で確認された。T11 では、東側において陶磁器が出土したが、西側では出土は確認されなかつた。基盤の層は黄褐色砂であった。トレント西側においては、昭和 40 年以前の建物跡と推定されるコンクリート基礎が計 8 個発見され、東西方向に並んでいた。また、それに沿う上管も発見された。基礎の大きさは縦 94cm、横 63cm、厚さ 10cm 以上であった。

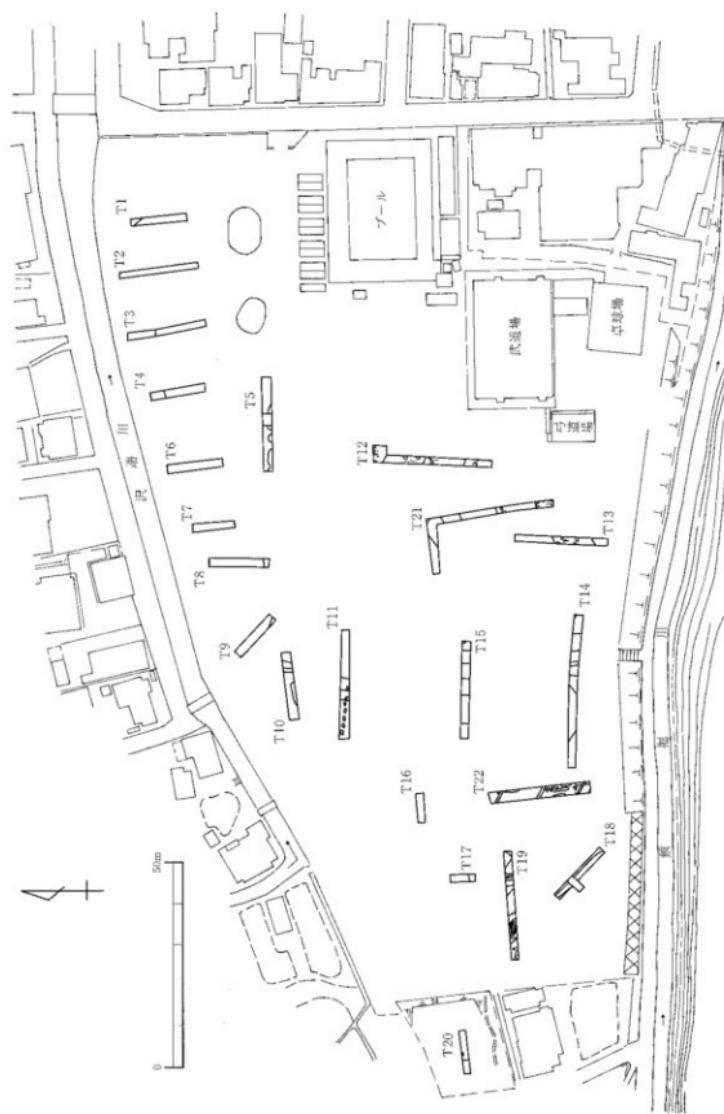
T12、13 では遺構、遺物が確認された。T12 では、ピット、柱穴が 31 基発見された。志野を含む陶磁器、P6 からは青銅製品 1 点が出土した。掘り下げを行った P1 ~ 5 の深さは 6 ~ 12cm である。T13 では、ピット 5 基、陶磁器が確認された。T13 での遺物取り上げは、陶磁器 1 が P1 ~ 3 付近、陶磁器 2 が P5 と南側暗渠間となっている。

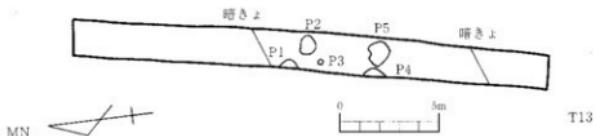
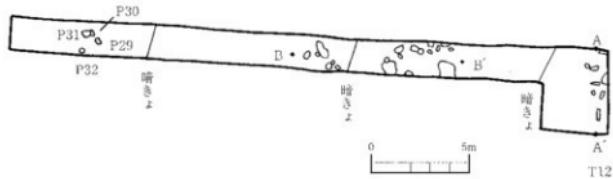
T14 では、溝状遺構が断面で発見されたが、時期不明である。遺物取り上げは西側から陶磁器 1、2、3、東側は陶磁器 4 とした。T15においても溝状遺構が断面で確認された。何れも陶磁器がややまとまって出土した。T15 の陶磁器 1 はトレント西端、陶磁器 2 はそれに接する東側のものとして取り上げた。

T16、17 では搅乱がひどく、明確な遺構、土層は確認されなかつた。陶磁器が若干出土した。

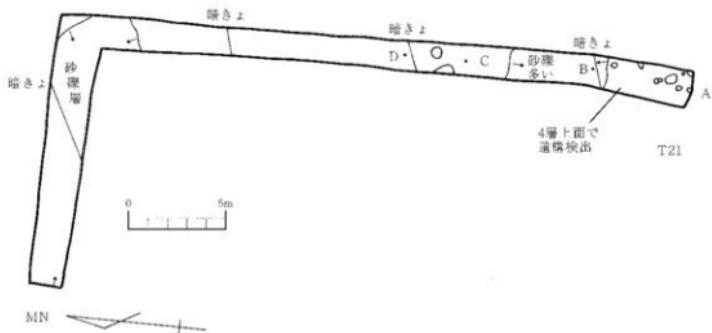
T18 では、トレントの半分が暗渠であったが、深掘り箇所の断面からはピット 2 基が発見された。遺物は出土しなかつた。基本層位は第 1 層、盛り土（上は山砂、下は燃え滓のようなもの）、30cm、第 2 層 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質砂、29cm、第 3 層、25Y7/6 明黄褐色砂、19cm 以上であった。第 2 層と遺構埋土は区別が難しかつた。

第14図 白石城三の丸跡調査区位置図

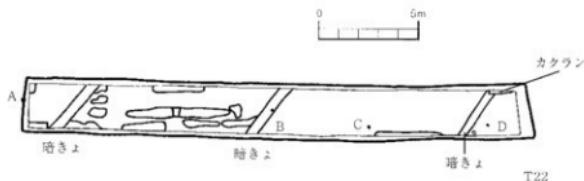
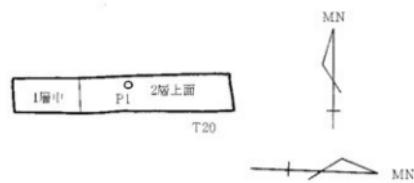
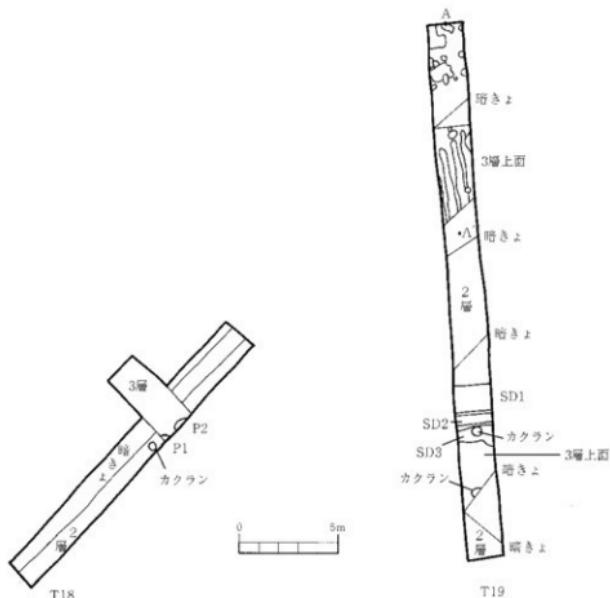




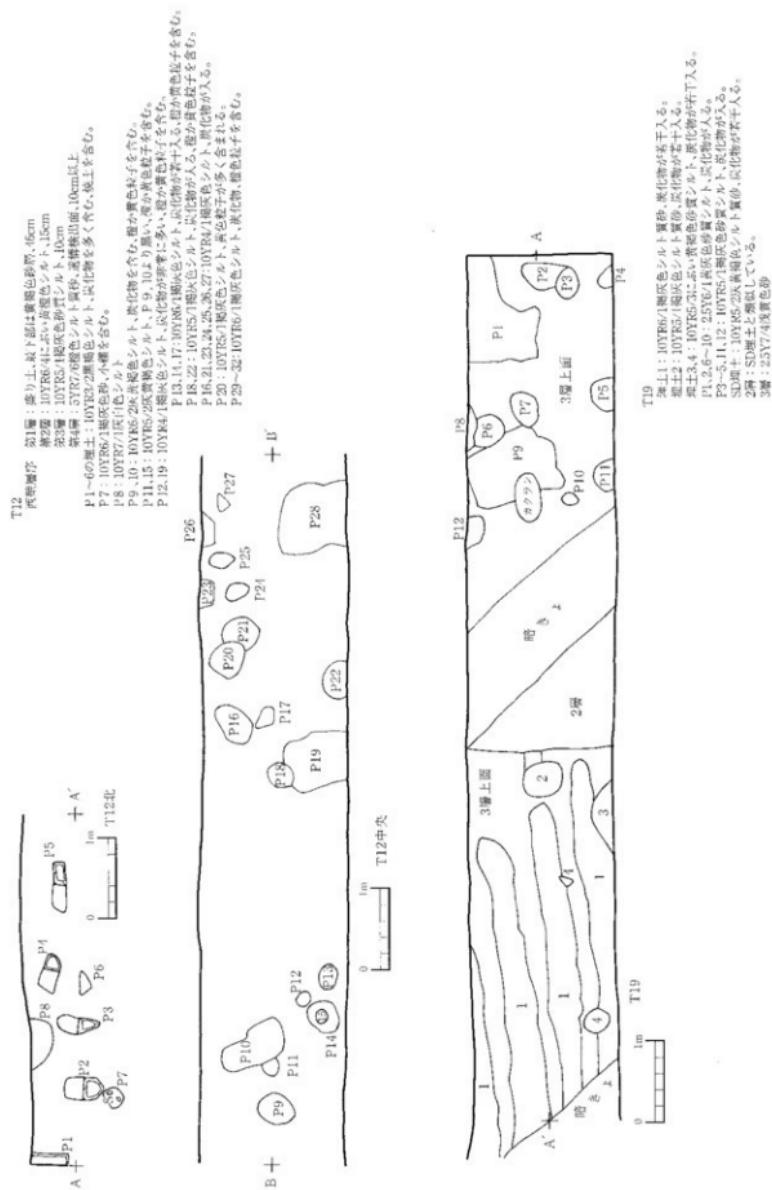
P1~5
10YR5/2灰黄褐色砂質シルト、炭化物を含む。



第15図 遺構配置図 (S=1/250)



第 16 図 遺構配置図 2 (S=1/250)



第17図 トレンチ詳細図1

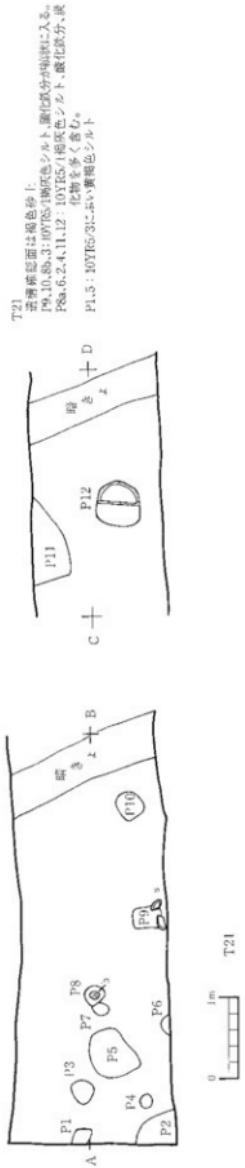
T19では10数基のピット類15基、畝間状遺構及び溝状遺構が7条確認された。このピットの中には近代に属するものも含まれている。丸瓦の玉縁破片が出ている（写真図版12-5、6）。暗渠が5本確認された。T19の陶磁器1は西側から1と2本日の暗渠出土、陶磁器2は2本日と3本日間出土、陶磁器3は3本日の暗渠前後である。ピット12は半戻し、深さを確認した。埋上から陶磁器が1点出土した。今回の調査区では、北東から南西方向の暗渠が3本確認された。

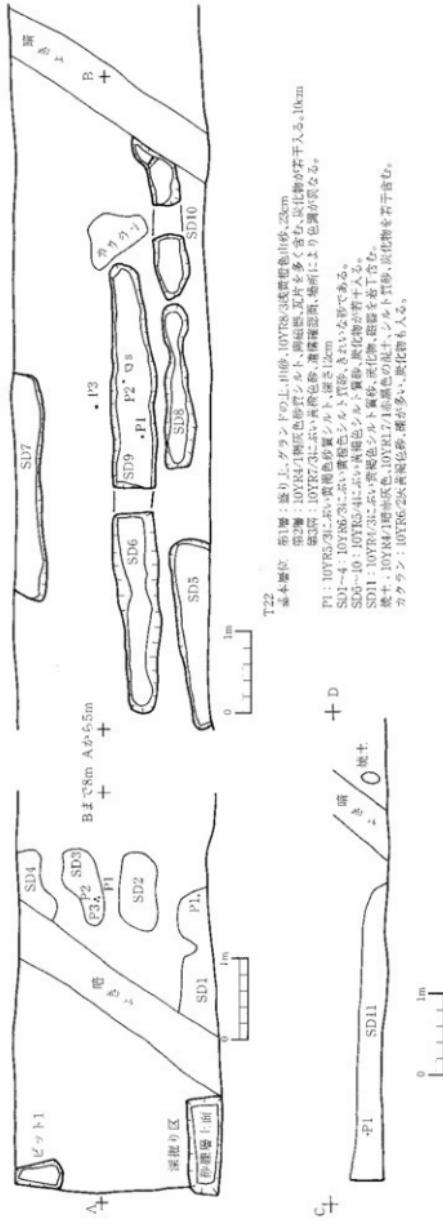
T20では、焼土を含む直径15cmのピット1基（10YR4/1褐灰色シルト質砂、10YR5/3赤褐色の焼土が混じる）が確認された。基本層位は第1層、表土、カクラン、プラスチック等が入る、55cm、第2層、10YR6/4にぶい黄橙色シルト、西側ほど黄色味が強く、小礫が多くなる、5cm以上であった。

T21では、トレンチ全体から陶磁器が出土したため、遺物取り上げは次のように分けた。陶磁器1は南側砂礫層上の2～3層出土、陶磁器2はP11、12付近の2～3層出土、陶磁器3は南側の砂礫層中出土、陶磁器4は南から2番目の暗渠北側、陶磁器5は南から3番目の暗渠南側、陶磁器6はトレンチ北側で東西に延長した箇所、陶磁器7は南から2本日の暗渠北側で、部分的に存在する5Y6/3オリーブ黄色シルト、粘性がやや強い層出土である。第2層と4層の混土で、この層にはガラス片が含まれていた。丸瓦の頭部片が出土している。陶磁器2の箇所では鬼瓦破片（写真図版13-8）1点が出土している。角状に尖っており、7条の沈線が施されているものである。長さは約6cmである。陶磁器には織部もある。ピット類は12基発見された。

T22では、溝状遺構が11条確認されたが、SD1、5、8、10、SD2、6、9、SD4、7が本来同一の遺構で、後世の削平により、途切れたものと考えられる。SD6、9は中間で、土層観察ベルトでもって南北に分け、遺物取り上げを行ったものである。ピット1基、焼土1基が発見された。SD8では、キセルの脂返しの管部分が出土した。SD3では、完形品の小杯が発見された。内部に朱色の物質が付着していた。SD3のP3は、鉄器であり、長さ4.9cmの管状のものである。トレンチ南側から産地不明、江戸時代の紅を入れた四角の容器片が見つかっている。

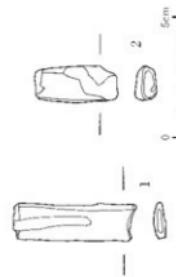
第18図 トレンチ詳細図2





第19図 T22詳細図

所1層	標記	出土位置	特徴	法	量	所2層
20-1	小瓶	白石城館	柱頭、金屬板が折り曲げられている。	長さ5cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm	17.7M	等高線
20-2	小瓶	白石城二の丸西、T12、F10土上部	骨側板、金属板が折り曲げられている。	長さ3.4cm、幅1.5cm、厚さ0.2cm	14.6	



第20図 出土した金属器

6 本郷遺跡

地 点 ①

県遺跡番号 02121

遺跡略号 HG

所 在 地 白石市字堂場前 32 番 3、32 番 4 の一部ほか

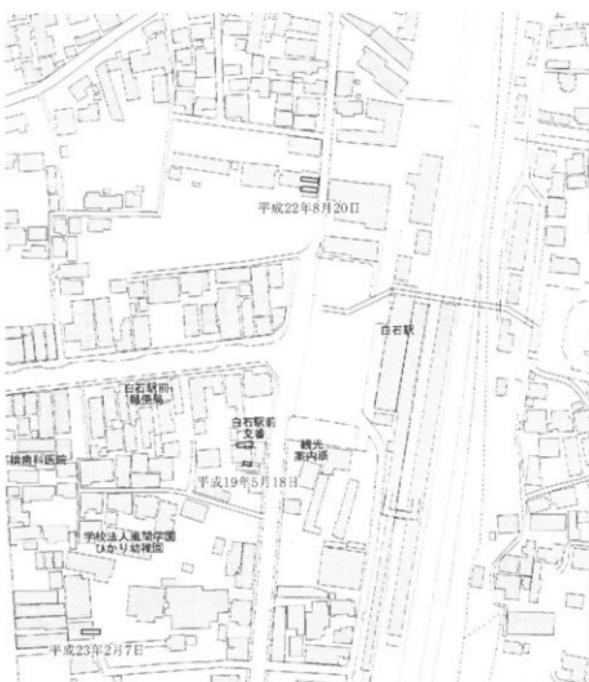
調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成 22 年 8 月 20 日

調査面積 185.47m² (掘削面積 16.92m²)

今回の事業地は JR 白石駅前である。周囲はアパートや倉庫群が立ち並んでいる。この箇所は以前、事務所等が建っていた場所である。幕末の白石城下絵図では、水田地帯として描かれている箇所である。住宅等が立ち並ぶようになったのは、東北本線開通の明治 20 年以降である。本郷遺跡は、これまで調査事例が少なく、遺構分布が不明な遺跡であった。

事業地内にトレンチを 2 箇所設定した。T1 では、土師器片が出土した。トレンチ西側は、焼土を含む擾乱が厚く堆積している。基本層位は第 1 層、表土、近現代陶磁器、木片を含む、直径 20-30cm の丸石



を多く含む、40cm、第 2 層、10YR6/1 暗灰色シルト質砂、直径 30cm 程の石を含む、43cm 以上、土師器を若干含む、擾乱は 25YR7/8 橙色上である。

T2 では、中央でピット 1 基が確認された。ピット埋土の特徴は 10YR5/1 暗灰色砂、酸化鉄を多く含むが、時期不明である。第 2 層から上師器が出土した。トレンチ西側は事務所時代のコンクリート基礎、玉石による擾乱がひどく、重機の掘削も容易ではなかつた。陶磁器、瓦片が出土している。

第 21 図 本郷遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)

地 点 ②

県遺跡番号 02121

遺跡略号 HG

所 在 地 白石市字柳町 16

調査要因 園舎建設

調査期日 平成 23 年 2 月 7 日

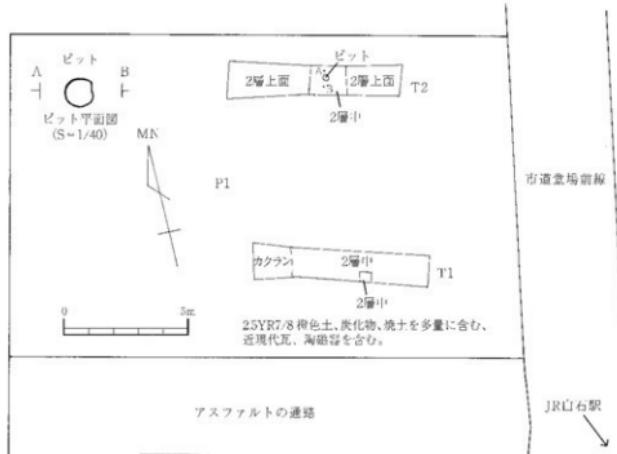
調査面積 253.76m² (掘削面積 19m²)

本郷遺跡は JR 東北本線白石駅を中心とした遺跡であり、古代の散布地として登録され、過去に、地表から土師器、須恵器が発見されている。今回の箇所は遺跡範囲の西端にあたる。

今回、23m ほどの基礎を伴う園舎が建築されることになったため確認調査を実施した。トレチは事業地中央に 1 箇所設定した。なお、事業地東側には公共下水道管が埋設されていたことから、トレチ拡張は行わなかった。

調査の結果、次の層位が確認された。第 1 層、10YR5/2 灰黄褐色土、層中に黄褐色山砂層が入る、建物コンクリート基礎あり、層厚 33cm、第 2 層、10YR7/6 明黄褐色砂質シルト、第 3 層ブロックが若干混じる、28cm、第 3 層、10YR4/1 暗灰色土、しまり強、下部は 4 層ブロックを含む、上部に土師器を含む、56cm、第 4 層、5YR7/3 にびい橙色土、酸化鉄分を含む、5cm 以上であった。遺物取り上げは深掘区より西は陶磁器 1、同東は陶磁器 2 とした。

トレチ内の大部分は搅乱であり、中央で深掘りを行ったが、近代以降の陶磁器、洋釘、針金、ビニール片が含まれていた。搅乱の厚さは 60cm ほどであった。



第 22 図 本郷遺跡地点① トレチ配置図

7 砂押遺跡

県遺跡番号 02397

所 在 地 白石市大鷹沢大町字佐野道
152 地内

調査要因 範囲確認

調査期日 平成 22 年 3 月 18 日～5 月 17 日

調査面積 913.01m² (掘削面積 35.04m²)

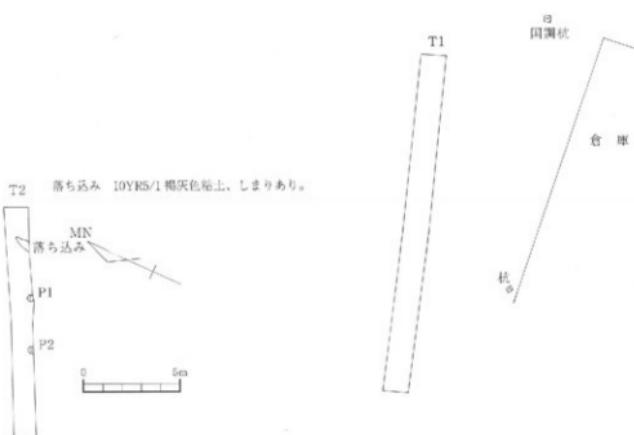
砂押遺跡は、東北新幹線白石藏王駅から東へ約 2km の丘陵上に位置している。

地元の口碑で戦国期に廃絶したという寺院跡（長陽寺）があったと推定されている箇所の試掘調査を実施した。砂押遺跡は古代の散布地として登録されており、土師器、須恵器が出土している。

調査では、地表に農業用黒ビニールが張ってあったので、それらを慎重に除去した後、発掘を行った。トレチは 2カ所設定した。調査の結果、いずれも過去に地形改変が実施され、削平や盛土がなされていたことが判明した。T2 では、ピット 2 基と三角形状の落ち込み 1 つが確認された。ピットは約 40cm ほどの方形を呈していた。埋土



第 23 図 砂押遺跡調査区図



第 24 図 砂押遺跡トレチ配置図



第25図 発見された銭貨

は10YR6/1褐色灰色粘土でしまりがあった。遺物は出土していない。ピット1は深さ5cm以上、ピット2は深さ5cmであった。ピット2の東半分は完掘した。落ち込みは110cm×60cmの大きさで、断面では溝状に落ち込む。T2の基本層位は次のとおりである。第1層、10YR5/1褐色シルト、18cm、第2層、10YR7/8黄橙色粘土、礫が多い、10cm以上であった。付近から寛永通宝銅錢が表採された。背面は12波で、直徑2.3cm、孔径0.6cm、重量は4gである（第25図、写真図版10-5）。遺構が確認されたことから遺跡範囲拡大を行った。

8 馬牛沼遺跡

県遺跡番号 02449

遺跡略号 BGN

所 在 地 白石市齊川字馬牛

調査期日 平成22年11月22日～11月29日

馬牛沼は白石市役所から南へ6.1kmの国道4号線沿いに位置している。

馬牛沼底において石器が採取されており、昭和59年11月、故中橋文化財保護委員長が遺跡登録カードを作成しているが、遺跡登録されていなかった箇所である。長さ13.9cm、幅4.3cm、厚さ1.2cmの尖頭器であるが、現物は不明である。

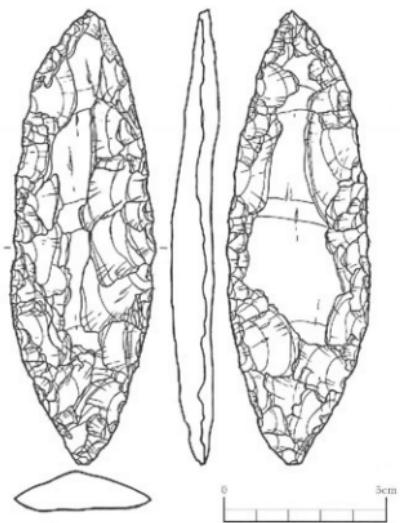
遺跡が所在するか否かを確認するため、沼干しが行われているこの時期に踏査を行った。その結果、沼の西側において土器片1点、中世陶器、土器底部片が発見された。

埋没林と思われる樹木群が確認された（高橋1978）。埋没林は根が放射状に地表に拡がっており、数カ所にまとまりをもって分布している。埋没林は東側で1箇所、南、北、西側では多数確認できた。多寡はあるものの、沼全体に拡がっている。北側のものは幹が横たわっているものが多い。

沼中央は水があり踏査できなかった。沼の東側は小礫が多数散布している。礫の下は茶褐色土が堆積しており、堅く、黒褐色腐植土は分布していない。礫に混じって、須恵器片1点、近世陶磁器が採取された。周囲には現代陶磁器、洞片（写真図版16-4-1）が散布していた。北側は腐食土が厚く堆積しており、注意していない足を取られる状況であった。洞片1点が発見された（写真図版16-4-2）。北東箇所で陶器片1点を発見した。沼の西と南側は腐食土が堆積しているが、下には黄白色粘土層が堆積している。北側も同様の堆積状況と考えられる。遺物の取り上げは1が沼の南西、2が東、3が北東、4が北側である。

第26図 馬牛沼地形図



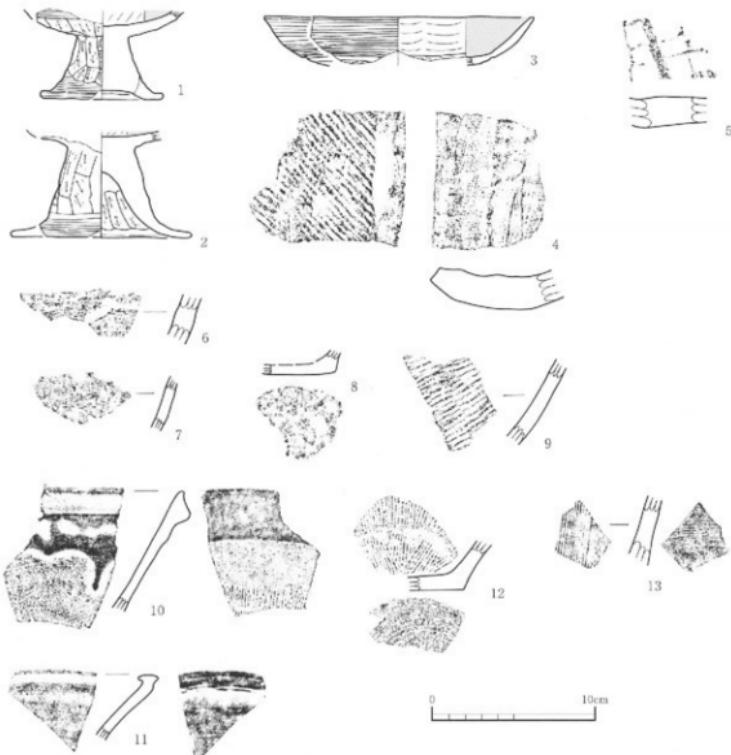


第27図 馬牛沼遺跡出土石器

埋没林の年代測定と樹種同定を委託した(第4章)。年代測定の結果、古代と縄文時代早期の所産であると考えられる。樹木1,2,5、6は根が沼底に放射状に伸びているものであるが、樹木4は根が埋没しており、幹しか確認できなかったものである。3は幹の下部、根が残っているものである。樹種同定の結果はケヤキ、トネリコ属、ハンノキ属となっている。

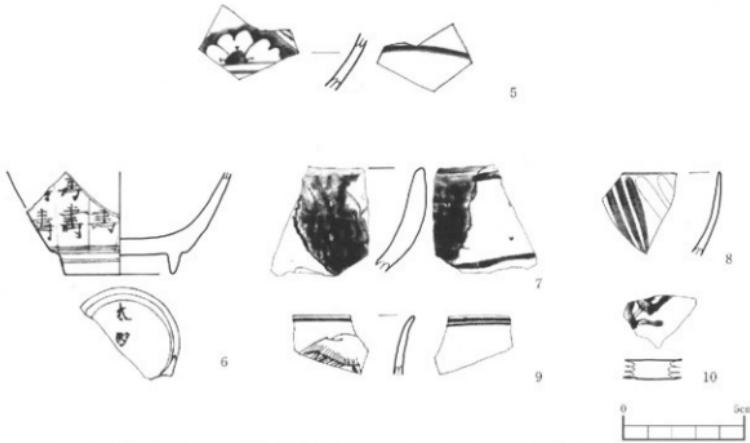
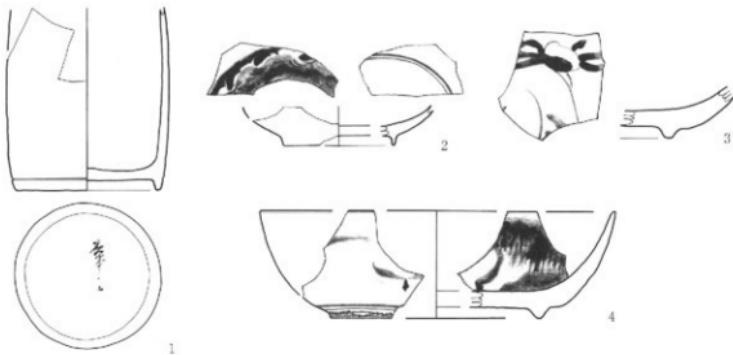


第28図 三部山遺跡、田上遺跡調査箇所



区段番号	種別	出土位置、部位	特徴	備考
29-1	土師器、高环	大畑遺跡地点①、T3.SII	外面、ヨコナデ→ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒色處理、推定底径7.4cm、残存高5.5cm	写真図版10-2
29-2	土師器、高环	大畑遺跡地点①、T3.SII	外面、ヨコナデ→ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒色處理、推定底径10.8cm、残存高6.8cm	写真図版10-1
29-3	土師器、环	大畑遺跡地点①、T3.SII	外面、ヨコナデ、ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒色處理、推定口径16.2cm、残存高3cm	写真図版10-3-2
29-4	平瓦	大畑遺跡地点①、T3.3層	凸面、平行タタキ目、凹面、丸目	写真図版10-3-1, 10-4
29-5	平瓦	大畑遺跡地点①、立会、4層	凸面、塔子タタキ、凹面、マメツ	写真図版10-3-3
29-6	中世陶器、体部破片	馬牛沼遺跡地点①	内外面、ナゲ、長石が多い、施釉不明	写真図版16-1-3
29-7	土師器、底部破片	馬牛沼遺跡地点①	外圓、ナゲ、内面、マメツ	写真図版16-1-2
29-8	土師器、底部破片	馬牛沼遺跡地点①	外圓、マメツ、内面、剥落	写真図版16-1-1
29-9	須恵器、体部破片	馬牛沼遺跡地点②	外圓、平行タタキ、内面、ヨコナデ	写真図版16-2-2
29-10	鍛錬鑄鉢、口縁部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄錬、内面、壘り目	
29-11	鍛錬鑄鉢、口縁部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄錬、内面、壘り目、厚壁、17世紀代	写真図版16-2-1
29-12	鍛錬鑄鉢、底部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄錬、素引重、内面、壘り目、	
29-13	鍛錬鑄鉢、体部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄錬、内面、壘り目、厚壁、17世紀代	写真図版16-3

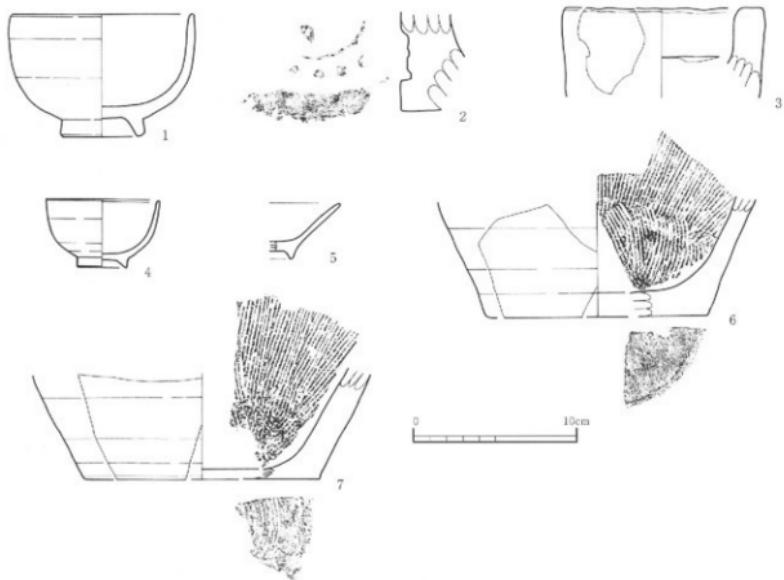
第29図 出土遺物



0 5cm

図版番号	出土遺跡	所々位置、層位	種別	特 質	備 考
30-1	白石城跡	T1.5~6層	磁器	楕円形、底部に鉢「常」。近代? 残存高7.4cm、底径6cm	地点①確認済査、写真図版11-1,2
30-2	白石城跡	T1	磁器	直前染付碗、波瀾文3、高台が低い、18世紀前半、残存高1.6cm、推定底径4.6cm	地点①工事立会、写真図版11-7-2
30-3	白石城三の丸跡	T6	磁器	直前染付皿、草文、17世紀中頃	写真図版14-3-2
30-4	白石城跡三の丸跡	T12	磁器	波佐見、「くわらんか焼」染付、18世紀代、蓋付に砂が付着、被熱している。推定口径14.5cm、器高4.4cm、推定底径8.6cm	写真図版14-3-1,14-4
30-5	白石城跡	T1.5~6層	磁器	直前、染付皿、17~18世紀?	地点②確認済査、写真図版11-7-1
30-6	白石城三の丸跡	T21,1層	磁器	直前染付碗、芳字文、高台に文字、蓋付は残いでいる、17世紀中頃、残存高4.2cm、推定底径4.6cm	写真図版13-2
30-7	白石城三の丸跡	T21,2~3層	陶器	楕円形、墨押し、鉄筆と崩縫釉、17世紀前半代	写真図版13-6,4
30-8	白石城三の丸跡	T21,2~3層	陶器	京信楽系、用いられている色は2色以上、草花文、18世紀代	写真図版13-3-1
30-9	白石城三の丸跡	T21,2~3層	磁器	染付碗反釉、中国?、16世紀末~17世紀前半	写真図版13-1-1
30-10	白石城三の丸跡	T21,2~3層	磁器	直前染付皿、17世紀代、不明文	写真図版13-1-2

第30図 出土陶磁器



図版番号	出土遺跡	出土位置、層位	種別	特 記	参考
31-1	白石城三の丸跡	T4	陶器	肥前陶器、具器手瓶、茶筅付りなし、17世紀後半。口径11cm、高7.5cm、底径4.5cm	写真図版11-3
31-2	白石城三の丸跡	T4付近で表浜	軒丸瓦	連珠巴文、裏面に接合痕あり、焼し瓦	写真図版15-1,2
31-3	白石城三の丸跡	T13、陶磁器1	石製鉢	内面に塗が付着、頼い、近世?	写真図版12-3,4
31-4	白石城三の丸跡	T22, SD3	陶器	湖戸美濃、灰釉小杯、18世紀後半? 内面に紅か朱漆、外面は黒色 物質付着、口径6.8cm、高さ4.2cm、底径3cm	出土位置P1、 写真図版13-5,7
31-5	白石城三の丸跡	T14	磁器	肥前青磁皿、型押し文様、墨付に絞付着、17世紀代。器高3.5cm	写真図版12-1,2
31-6	白石城三の丸跡	T12, P28	陶器	能方言、鉄錆標跡、18世紀以前、底面の軸を拭き取っている、船上 に白色絞子が多い、残存高7.1cm、推定底径13.4cm	写真図版15-3,4
31-7	白石城三の丸跡	T9, 1~2層	陶器	鉄錆標跡、糸切り底、底面にも鉄錆、産地不明、近世、残存高6.4cm、 推定底径14.2cm	写真図版15-5,6

第31図 出土遺物

第4表 市内遺跡出土陶磁器等一覧

番号	出土地點	出土地層、層位	種類	特征	年 代	参考
1.	大根通跡	表面	陶器	施釉不明、灰土?	4月13日、地(3)2層(?)	
2.	大根通跡	T1.1~2層	陶器	施釉陶片、施釉不明、灰土	3月8日、地(3)3層(?)	
3.	大根通跡	T2.1~2層	陶器	施釉陶	3月8日、地(3)3層(?)	
4.	大根通跡	T2.1~2層	陶器	灰土	3月8日、地(3)3層(?)	
5.	大根通跡	T2.1~2層	陶器	現代、灰土	3月8日、地(3)3層(?)	
6.	大根通跡	T1.1~2層	陶器	小口斜肩、輪制輪、18~19世紀前半	3月8日、地(3)3層(?)	
7.	志村東塚跡	表層	陶器	人面模壓、鍛小口、刻符等、11世紀~19世紀代	5月19日、地(3)地盤(?)	
8.	音1通跡	T1	陶器	網狀裂紋、垂耳瓶、20世紀	6月21日、亭立台	
9.	音1通跡	T1	陶器	大腹橫肩、施釉陶片、19世紀代	8月31日櫻花園家	
10.	音1通跡	表層	陶器	大腹橫肩、施釉陶、18世紀代	8月31日櫻花園家	
11.	音1通跡	表層	陶器	施釉陶、施釉陶	8月31日櫻花園家	
12.	音1通跡	表層	陶器	灰土	8月31日櫻花園家	
13.	音1通跡	表層	陶器	施釉陶、帶刻符、時代不明、灰土	8月31日櫻花園家	
14.	音1通跡	表層	瓦質土器	瓦質土器、灰土		
15.	音1通跡	表層	陶器	垂耳瓶、施釉、輪制輪、19世紀後半		
16.	音1通跡	表層	陶器	大腹橫肩、寬足灰土、19世紀中期		
17.	音1通跡	表層	陶器	垂耳瓶、施釉陶片、19世紀前半~中葉		
18.	音1通跡	表層	陶器	垂耳瓶、施釉陶片、19世紀前半~中葉		
19.	音1通跡	表層	陶器	大腹橫肩、施釉陶、18世紀後半		
20.	音1通跡	表層	陶器	垂耳瓶、施釉陶片、19~20世紀		
21.	音1通跡	表層	陶器	垂耳瓶、施釉陶、19世紀後半		
22.	日本油蔴地(1)	T1.1~2層(?)	陶器	垂耳瓶、施釉陶、19世紀後半		
23.	白石城跡	T1	陶器	小口斜肩、明?施蓋青釉、18世紀	地(5)櫻花園家	
24.	白石城跡	T1	陶器	大腹橫肩、施釉陶片、施蓋	地(5)櫻花園家	
25.	白石城跡	T1.3~6層	陶器	寬足、垂耳瓶、心形孔、18世紀代	地(5)櫻花園家、可見園坂11-6-2	
26.	白石城跡	T1.3~6層	陶器	圓底盤、小口斜肩	地(5)櫻花園家	
27.	白石城跡	T1.3~6層	陶器	垂耳瓶、小口斜肩	地(5)櫻花園家	
28.	白石城跡	T1.1~10層	陶器	垂耳瓶、施蓋青釉、內腹有施、現代	地(5)櫻花園家	
29.	白石城跡	T1.12層	陶器	垂耳瓶、小口斜肩	地(5)櫻花園家	
30.	白石城跡	T1.1~15層	陶器	灰土	地(5)櫻花園家、可見園坂10-6	
31.	白石城跡	T1	陶器	小口斜肩、灰土	地(5)櫻花園家	
32.	白石城跡	T1	陶器	小口斜肩、灰土	地(5)櫻花園家	
33.	白石城跡	T1	陶器	大腹橫肩、灰土	地(5)櫻花園家	
34.	白石城跡	T1	陶器	垂耳瓶、施蓋青釉、心形孔、18世紀	地(5)櫻花園家、可見園坂11-6-3	
35.	白石城跡	T1	陶器	大腹橫肩、灰土	地(5)櫻花園家	
36.	白石城跡	T1	陶器	方底盤、白釉、殘次品、年代不明	地(5)櫻花園家、可見園坂11-6-1	
37.	白石城跡	T1	陶器	垂耳瓶、白釉小口瓶、年代不明	地(5)櫻花園家	
38.	白石城跡	T1	陶器	瓦質土器、近現代	地(5)櫻花園家	
39.	白石城跡	T1	陶器	近現代	地(5)櫻花園家	
40.	白石城跡	T1	陶器	近現代	地(5)櫻花園家	
41.	白石城(2)の表跡	表層	陶器	灰土	2点	
42.	白石城(2)の表跡	T1	陶器	垂耳瓶、輪制輪、19世紀前半		
43.	白石城(2)の表跡	T2	表層	大腹橫肩、白釉、18世紀後半	南越坂2	
44.	白石城(2)の表跡	T2	表層	垂耳瓶、小口斜肩、輪制輪、现代	南越坂2、可見園坂11-3-2	
45.	白石城(2)の表跡	T2	表層	垂耳瓶、小口斜肩	南越坂2	
46.	白石城(2)の表跡	T2	表層	大腹橫肩、輪制輪、18世紀	南越坂2	
47.	白石城(2)の表跡	T2	表層	大腹橫肩、輪制輪、18世紀	南越坂2	
48.	白石城(2)の表跡	T4	陶器	垂耳瓶、灰土、北方系、遼宋		
49.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	不明	輪制輪、垂耳瓶、10~11世紀後半		
50.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	陶器	垂耳瓶、10~11世紀後半		
51.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	陶器	大腹橫肩、輪制輪、10~11世紀後半		
52.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	陶器	垂耳瓶、10世紀後半		
53.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	陶器	垂耳瓶、灰土		
54.	白石城(2)の表跡	T5.2層(?)上層	陶器	垂耳瓶、輪制輪、10世紀後半		
55.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半		
56.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半		
57.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半		
58.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂11-5-1	
59.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂14-3-3	
60.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂14-3	
61.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂14-3	
62.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂14-3	
63.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	灰土、輪制輪、17世紀後半	芳賀園坂14-3	
64.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	小口斜肩、施釉陶片、19世紀後半		
65.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	施釉陶片、垂耳瓶、19世紀後半		
66.	白石城(3)の表跡	T3.2層(?)上層	陶器	铁輪制輪、灰土、灰土		
67.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	小口斜肩、或古色綠釉、18世紀後半	芳賀園坂14-1	
68.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	小口斜肩、灰土、輪制輪、18世紀後半		
69.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	小口斜肩、輪制輪、18世紀後半		
70.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土	3点	
71.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土	2点	
72.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半		
73.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半		
74.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半		
75.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	小口斜肩、18世紀後半		
76.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	小口斜肩、輪制輪、18世紀後半		
77.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
78.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、垂耳瓶、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
79.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、垂耳瓶、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
80.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
81.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
82.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
83.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
84.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
85.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	芳賀園坂14-2	
86.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半	3点	
87.	白石城(3)の表跡	T3.1~2層	陶器	灰土、輪制輪、18世紀後半		

番号	出土直通語	出土位置・海位	種別	特　徴	考　察
88	白石城の丸跡	T12	周辺	当方舟、灰船、珊瑚不明	
89	白石城の丸跡	T12	周辺	馬鹿舟、行舟、瓦器	
90	白石城の丸跡	T12	周辺	瓦算一脉、社祖不詳	海賊留用草 田舎祭奉手
91	白石城の丸跡	T12	周辺	瓦代	
92	白石城の丸跡	T12, T4	6-9窟	施設してある	
93	白石城の丸跡	T12, T4	周辺	底谷、土器、時期不明	
94	白石城の丸跡	T12, T4	周辺	新開墾地、發發手舟、17世紀前半	
95	白石城の丸跡	T12, T4	周辺	小町留置、斯ハ少部分、16世紀後	
96	白石城の丸跡	T12	石板	石鋪地、荷物者、近畿?	馬岳西 内野村
97	白石城の丸跡	T12	周辺	肥前船記、西國手帳、17世紀後	内野村
98	白石城の丸跡	T12	周辺	肥前船記、西國手帳	内野村
99	白石城の丸跡	T12	周辺	「肥前船」、肥前船頭、15世紀後	高須郡、大字萬葉山、15世紀後
100	白石城の丸跡	T14	周辺	上層、近代以前	
101	白石城の丸跡	T14	6-9窟		東根郡
102	白石城の丸跡	T14	周辺	便り舟、近畿?	東根郡
103	白石城の丸跡	T14	周辺	「脚質」舟、近畿、近代	東根郡
104	白石城の丸跡	T14	周辺	肥前、舟形小舟と舟車、18世紀後?	東根郡
105	白石城の丸跡	T14	周辺	地方富、輪舟、近畿?	東根郡
106	白石城の丸跡	T14	周辺	舟門難波、近畿代	東根郡
107	白石城の丸跡	T14	周辺	千舟、近代以前	内野村3
108	白石城の丸跡	T14	周辺	大坂舟頭、輪舟、18世紀後	内野村
109	白石城の丸跡	T15	周辺	船頭、輪舟、近畿?	内野村
110	白石城の丸跡	T15	周辺	輪舟、便り舟、近畿	内野村
111	白石城三の丸跡	T15	周辺	船頭駆動小舟	内野村
112	白石城三の丸跡	T15	周辺等	近畿以北、近畿	内野村2
113	白石城三の丸跡	T15	周辺	「脚質」舟、近畿、17世紀代	内野村
114	白石城三の丸跡	T15	周辺	便り舟、舟行、小舟、遠洋帆船車~浮舟前半	高須郡
115	白石城三の丸跡	T15	周辺	便り舟、舟行、近畿、17世紀前半~中後	高須郡
116	白石城三の丸跡	T15	周辺	便り舟、近畿、17世紀前半~中期	高須郡
117	白石城三の丸跡	T16	周辺	便り舟、近畿、近代	高須郡
118	白石城の丸跡	T17	周辺	便り舟、近畿、近代	高須郡
119	白石城の丸跡	T18, 1-2層	周辺	便り舟、近畿、近代	高須郡
120	白石城の丸跡	T18, 1-2層	周辺	糸附舟、17-18世紀代	
121	白石城の丸跡	T18, 1-2層	周辺	大坂船頭、輪舟頭、18世紀代	
122	白石城の丸跡	T19, 1-2層	周辺	肥前船頭、小舟頭、近畿	内野村1
123	白石城の丸跡	T19, 1-2層	周辺	船頭、小舟、17世紀後、船山に舟被子了	内野村1
124	白石城二の丸跡	T19, 1-2層	周辺	輪舟頭、輪舟、近代	内野村
125	白石城二の丸跡	T19, 1-2層	周辺	大坂船頭、輪舟、18世紀代	内野村
126	白石城二の丸跡	T19, 1-2層	周辺	小舟頭、近畿、17世紀後	内野村
127	白石城三の丸跡	T19, 1-2層	周辺	肥前船頭、近畿、17世紀代	内野村
128	白石城三の丸跡	T19, 1-2層	周辺	「脚質」舟、近畿、17世紀代	内野村
129	白石城三の丸跡	T19, 1-2層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	内野村
130	白石城三の丸跡	T19, 1-2層	周辺	小舟頭、近畿、近代	内野村
131	白石城の丸跡	T19, 1-2層	周辺	便り舟、近畿、糸附舟、19世紀前半	内野村
132	白石城の丸跡	T19, 1-2層	周辺	人頭船頭、白須賀船頭、19世紀前半	内野村
133	白石城の丸跡	T19, P3段等	周辺	便り舟期不詳	
134	白石城の丸跡	T20, 1-2層	周辺	便り舟、輪舟、17世紀代	
135	白石城三の丸跡	T20, 1-2層	周辺	便り舟、便り舟、17世紀代	高須郡
136	白石城三の丸跡	T20, 1-2層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
137	白石城三の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
138	白石城三の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
139	白石城三の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
140	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	便り舟、近畿、17世紀代	高須郡
141	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
142	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
143	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
144	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	糸附舟、近畿、17世紀代	高須郡
145	白石城二の丸跡	T21, 2-3層	周辺	前原糸附舟、近畿、18世紀前半代	高須郡
146	白石城三の丸跡	T21, 2-3層	周辺	前原糸附舟、近畿、18世紀前半代	高須郡
147	白石城三の丸跡	T21, P2, 植木	周辺	便り舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
148	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	便り舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
149	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	肥前船頭、輪舟頭、17世紀代	高須郡
150	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	肥前船頭、輪舟頭、17世紀前半~18世紀前半代	高須郡
151	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	肥前船頭、輪舟頭、17世紀代	高須郡
152	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	便り舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
153	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	人頭船頭、糸附舟、17世紀代	高須郡
154	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	人頭船頭、糸附舟、17世紀代	高須郡
155	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
156	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
157	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
158	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
159	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
160	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
161	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
162	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
163	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	高須郡
164	白石城二の丸跡	T22, 植木	内野	糸附舟不詳、糸附舟	
165	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟?	
166	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、近畿、近代	
167	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟加小舟、近畿、17-18世紀	
168	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟加小舟、糸附舟、17-18世紀	
169	白石城二の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17-18世紀	
170	白石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	
171	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	2点
172	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	
173	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	
174	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	
175	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	
176	丹石城三の丸跡	T22, 植木	周辺	糸附舟、糸附舟、17世紀代	3点

第4章 自然科学分析1 馬牛沼遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

馬牛沼遺跡は、宮城県白石市齊川字馬牛に所在する。測定対象試料は、沼底から採取された木片（樹木 1IAAA-110513、樹木 4IAAA-110514、樹木 6IAAA-110515）の合計 3 点である（表1）。樹木 1、樹木 6 は樹皮が確認され、その直下の木質部より試料が採取された。

2 測定の意義

沼の形成年代を探る。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸・アルカリ・酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である（表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby AgeyrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として測る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

ある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の曆年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一行を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al 2009) を用い、OxCalv4.1 軟件 (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、樹木1が 870 ± 20 yrBP、樹木4が 9150 ± 30 yrBP、樹木6が 940 ± 20 yrBP である。樹木1と樹木6はある程度近い年代値であるが、樹木4はこれより大幅に古い値となっている。历年較正年代 (1σ) は、樹木1が 1160 ~ 1210cal AD の範囲、樹木4が 8425 ~ 8293cal BC の間に3つの範囲、樹木6が 1038 ~ 1152cal AD の間に3つの範囲で示され、樹木1は古代から中世、樹木4は紀元時代早期、樹木6は古代に相当する値である。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-110513	樹木1	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-31.24 \pm 0.32	870 ± 20	8970 ± 0.25
IAAA-110514	樹木4	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-29.83 \pm 0.39	9150 ± 30	3199 ± 0.14
IAAA-110515	樹木6	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-25.81 \pm 0.44	940 ± 20	8899 ± 0.25

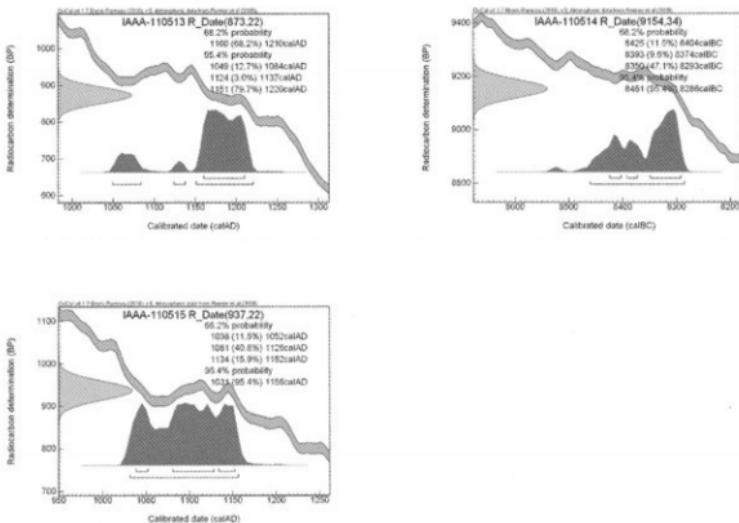
[#4462]

表2

固定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		層年数正用 (yrBP)	1 σ 層年代範囲	2 σ 層年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-110513	980 ± 20	88.56 ± 0.24	873 ± 22	1160calAD - 1210calAD (68.2%)	1049calAD - 1084calAD (12.7%) 1124calAD - 1137calAD (3.0%) 1151calAD - 1220calAD (79.7%)
IAAA-110514	9.230 ± 30	31.68 ± 0.13	9.154 ± 34	8425calBC - 8404calBC (11.5%) 8393calBC - 8374calBC (9.6%) 8350calBC - 8293calBC (47.1%)	8461calBC - 8286calBC (95.4%)
IAAA-110515	950 ± 20	88.84 ± 0.23	937 ± 22	1038calAD - 1052calAD (11.5%) 1081calAD - 1128calAD (40.8%) 1134calAD - 1152calAD (15.9%)	1031calAD - 1156calAD (95.4%)

[参考値]

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360Reimer P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

[参考] 層年校正年代グラフ

第4章2 馬牛沼埋没樹の樹種同定

吉川純子（古代の森研究会）

1はじめに

馬牛沼は、白石市東川の馬牛館南麓に位置する沼で、天然の沼かどうかは明らかでないが8世紀末以前に小規模の水域が存在していたとされている。現在は冬期に水を抜いて沼干しが行われている、いわば灌漑用水の溜池となっている。この沼底には埋没樹の存在が知られており、樹種は沼の成立と密接に関連することから、これらの樹木の種類を明らかにするため、埋没樹のうち5点の樹種同定を行った。

樹木1～5の試料採取地点を図1に示した。試料125は根株状の一部を、試料34は根株から立ち上がった最上部をそれぞれ小ブロックで切り取り、剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を作成し、ガムクロラールでプレパラートに封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。

2 同定結果

木材組織の細胞構造を観察した結果、樹木1はケヤキの根材、樹木2はトネリコ属の根材、樹木3はトネリコ属の根から幹に移行する部分とみられる材、樹木4はハンノキ属ハンノキ節の幹材、樹木5はハンノキ属ハンノキ節の根材であった(表1、写真図版9)。以下に木材解剖学的記載を行う。

表1 馬牛沼埋没樹の樹種

試料番号	樹種	部位
樹木1	ケヤキ	根材
樹木2	トネリコ属	根材
樹木3	トネリコ属	幹材
樹木4	ハンノキ属ハンノキ節	幹材
樹木5	ハンノキ属ハンノキ節	根材

ハンノキ属ハンノキ節 (*Alnus sect. Gymnothrysus*) : 年輪内に小さい管孔が単独ないし数個放射方向に複合してほぼ均一に配列する散孔材で、横断面で放射組織の大きな集合が目立つ。道管の穿孔板は段数10～30段程度の階段状で、放射組織は單列同性である。樹木5は管孔密度がかなり少ないと根材である。

ケヤキ (*Zelkova serrata Sieb. et Zucc.*) : 年輪最初に大きな道管が1列配列し、その後小さい道管が斜めや接線状に配列する環孔材。穿孔板は單一で、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で7～8細胞幅で、上下端に時々結晶細胞がみられる。本試料は小道管がはっきりせず、道管壁がやや薄く抜けた感じで、柔細胞の細胞壁も薄く均質な感じであるため根材と同定した。

トネリコ属 (*Fraxinus*) : 年輪最初に大きな道管が1列配列し、小道管が放射方向ないし斜めに数個複合して配列する環孔材で道管の穿孔板は單一である。放射組織は同性で1～3細胞幅で10細胞高程度と比較的短い。樹木3は道管の配列がはっきりし小道管がかなり厚壁では幹材であるが、樹木2は道管の大きさの違いが少なく、配列はまばらでやや薄壁であることから根材と同定した。

3. 考察

馬牛沼埋没樹の樹種を調査した結果、沼の南側2個体はケヤキとトネリコ属、沼の西側3個体

はトネリコ属1個体とハンノキ節2個体であった。ケヤキは渓谷林を形成するが地下水位が高い湿地などの場所には生育しない。ハンノキ属ハンノキ節は東北地方に5種が生育し、ケヤマハンノキなど5種は山地や渓流沿いに生育し、ハンノキは低地で湿地林を形成する。トネリコ属は東北地方に6種が生育し、このうちトネリコをはじめとしてほとんどの種類が山地に生育するが、ヤマトアオダモはケヤキ同様渓谷林を形成し、ヤチダモは湿地に生育する。ただしこれら木材の細胞構造学的な種の区別はできない。樹木1～5が同時期に生育していたかどうかの確認はされていないが、少なくとも樹木1のケヤキが生育していた時にはこの地点の地下水位は比較的低かったと考えられる。高橋氏の調査によると、馬牛沼は8世紀末頃から存在していたようだが、天気が続くと干上がる程度の水たまりではないかとしている（高橋 1978）。樹木3～5がある沼の中央付近は水が溜まりやすくハンノキ節やトネリコ属などが湿地林を形成し、地盤が固いとされる南側にはケヤキなどの渓谷林が形成されていた可能性もある。高橋氏によれば、沼の中央付近の樹木はスコップで切れるほど軟らかいが、南側の樹木は大変固い（高橋 1978）との記述があり、固さの違う要因として中央付近の樹木と南側の樹木が生育していた時期が異なる場合が考えられるが、もう一つの要因としては中央付近に湿地林が分布し南側は山地に生育する種類が分布したというように、地点により生育していた種類が異なる場合も考えられる。



図1 白石市馬牛沼埋没樹木分布図

引用文献

高橋辰男. 1978. 馬牛館と馬牛沼の伝説. 山麓文化 刊行号. 白石地方文化研究所. 33-40.

第5章 ま　と　め

- 1 大畠遺跡では礎石建物跡の一部、竪穴住居跡が発見され、官衙中心域の一部が確認された。
- 2 矢ノ口一里塙は、近世の白石角田街道沿いに位置する一里塙である。塙1基と街道の一部が発見された。
- 3 塙下遺跡、本郷遺跡、砂押遺跡では遺物、遺構の分布が確認された。
- 4 白石城跡では、近代以降の盛土層が確認され、近世・近代の陶磁器等が出土した。
- 5 白石城三の丸跡では、多数のピット等が確認され、多くの陶磁器、瓦、金属製品が出土した。三の丸跡の侍屋敷跡に伴うものと考えられる。
- 6 馬牛沼遺跡では、古代～近世の遺物が発見された。埋没林は年代測定の結果、縄文時代早期、古代のものと推定される。

引用参考文献

- 相原淳一ほか 1986 小梁川遺跡遺物包含層土器編 原頭遺跡・養源寺跡・大熊南遺跡
七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 宮城県文化財調査報告書第117集
- 相原淳一ほか 1988 小梁川遺跡 大梁川遺跡（石器編） 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ
宮城県文化財調査報告書第126集
- 相原淳一 2000 「福岡長袋地区的分布調査」『白石市文化財愛護友の会々報』第22号 pp.5-6
- 我妻健治ほか 1995 『よみがえる白石城』 水戸社
- Kaoru Akoshima 2008 「A tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan,
1968 to 1977 : Nakahashi's legacy and beyond」『蔵王東麓の郷土誌・中橋彰吾先生追悼論文集』
pp.53-78
- 石川仁出志 2009 「弥生時代・壇再葬墓の終焉」『考古学雑刊』第17号 pp.9-20
- 伊藤玄三 1960 「宮城県青木の弥生式遺跡と出土々器」『東北考古学』1 pp.9-23
- 氏家和典 1957 「東北上師器の型式分類とその歴年」『歴史』14 (『東北古代史の基礎的研究』に収録)
- 遠藤智、清野俊太郎 1984 梅田遺跡調査報告書 白石市文化財調査報告書第22集
- 岡田清一ほか 1994 「第三編 中世 第二章 幕府政治の進展と刈田郡」『藏王町史』通史編 pp.241-259
- 風間觀静ほか 1981 白石・角田道 歴史の遺訓金報告書 宮城県文化財調査報告書第80集
- 片倉信光、後藤勝彦、中橋彰吾 1976 『白石市史』別巻 考古資料篇
- 加藤道男ほか 1984 二屋敷遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ 宮城県文化財調査報告書第99集
- 神原雄一郎 2009 「盛岡における縄文時代草創期・早期の土器」『考古学雑誌』第178号 pp.69-178
- 井地逸夫 1996 一本杉窯跡群 宮城県文化財調査報告書第172集
- 日下和寿、中橋彰吾ほか 1998 片倉小十郎の城 白石城跡発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第26集
- 日下和寿、佐藤敏幸 2008 市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ 白石市文化財調査報告書第31集
- 日下和寿、櫻井和人ほか 2009 和尚堂遺跡ほか発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第37集
- 日下和寿、佐藤敏幸 2011 中ノ在家遺跡 白石市文化財調査報告書第39集
- 後藤勝彦 1984 「宮城県白石市上高野遺跡・保原平遺跡発掘調査報告」
『白石市史』3の(2)特別史下の(1) pp.567-645
- 坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』
- 佐川正敏、吉岡恭平、相原淳一 2006 「宮城県における土器出現期の現状と課題」『宮城考古学』第7号 pp.27-56

- 佐久間光平 2004 「宮城県の旧石器遺跡の現状」『宮城考古学』第6号 pp.35-50
- 佐々木和博、菊地逸夫 1985 「白石市元山遺跡出土の古瓦」「赤い本 片倉信光氏追悼論文集』 pp.55-64
- 佐々木洋治 1971 『高畠町史』別巻 考古資料編
- 佐藤敏幸 2011 「白石市内出土の鐵入須恵器について」中ノ在家遺跡
白石市文化財調査報告書第39集 pp.4-8
- 佐藤祐輔 2010 「2009年の考古学界の動向 弥生時代 東北」『考古学ジャーナル』601 pp.53-56
- 設楽博巳 2008 「弥生再葬墓と社会」
- 白石市教育委員会 1990 白石城の絵図・白石城下絵図
- 白石地域文化研究会 1982 「宮城県白石市下川原子A遺跡第1次調査報告」「赤い本」創刊号 pp.37-82
- 菅原洋夫、清野俊太郎、日下和寿 2009 八幡坂遺跡ほか発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第34集
- 芹沢長介 1981 「宮城県のやきもの」「日本やきものの集成」1 北海道 東北 関東 pp.124-128
- 高橋辰男 1978 「仏説と史実をさぐる・馬牛館と馬牛沼」『山寶文化』創刊号 pp.33-40
- 千田和文ほか 1987 大館遺跡群・大新町遺跡・昭和61年度発掘調査概報
- 千葉直樹 2010 鎌治沢遺跡ほか 宮城県文化財調査報告書第222集
- 土岐山武 1982 松田遺跡 仙南・仙塩・広域水道関係遺跡調査報告書Ⅱ 宮城県文化財調査報告書第88集
- 中横彰吾 1972 白石市郡山横穴古墳群 白石市文化財調査報告書第11号
- 中橋彰吾 1987 「中世城館の規模と構造について」『白石市史』3の(3)特別史下の(2) pp.543-648
- 中橋彰吾ほか 1979 白石市の文化財 白石市文化財調査報告書第20集
- 丹羽茂 1982 松田遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書Ⅶ 宮城県文化財調査報告書第92集
- 丹羽茂ほか 1982 菅生田遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書Ⅷ 宮城県文化財調査報告書第92集
- 東影彦 2009 「東北地方における須恵器系埴輪の展開」『宮城考古学』第11号 pp.127-139
- 藤沼邦彦 2010 「陸奥国(宮城県)」「古陶の語 中世のやきもの」 pp.280-289
- 真山悟ほか 1985 小柴川東遺跡 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ 宮城県文化財調査報告書第107集
- 村田晃一 1987 小柴川遺跡 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 宮城県文化財調査報告書第122集



1. 調査風景（北から）



2. T3 の SI1（南から）



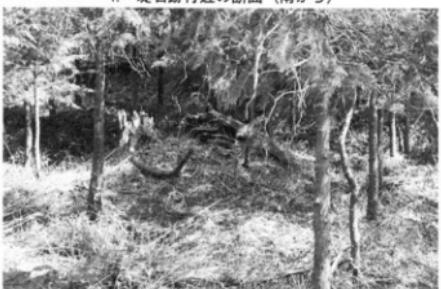
3. 硏石（北から）



4. 硏石跡付近の断面（南から）



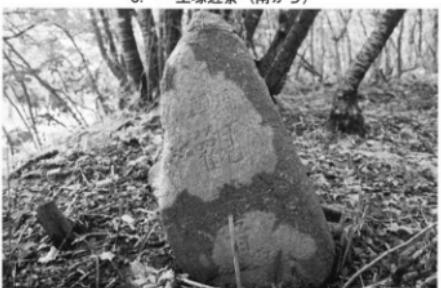
5. 一里塚と街道跡（西から）



6. 一里塚近景（南から）



7. 一里塚と街道跡（東から）



8. 馬頭觀世音碑

写真図版 1 大畠遺跡（1～4）、矢ノ口一里塚（5～8）



1. 壁下遺跡近景（南から）



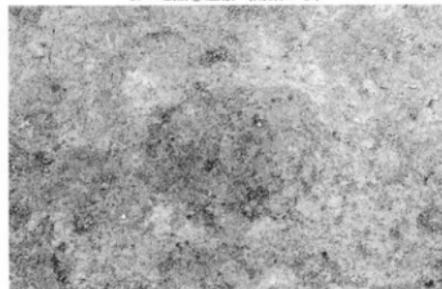
2. 同 T2 全景（北から）



3. 地点①遠景（南東から）



4. 地点① T2 全景（東から）



5. 同ピット1（東から）



6. 同 T1 西端のカクラン（南から）



7. 地点②トレンチ全景（西から）



8. 砂押遺跡遠景（南から）

写真図版2 壁下遺跡（1、2）、本郷遺跡地点①（3～6）、同地点②（7）、砂押遺跡（8）



1. P1 (北西から)



2. 調査風景 (東から)



3. T1 土層断面 (北から)



4. 調査前風景 (東から)



5. 作業風景 (西から)



6. 作業風景 (東から)



7. T6～8 作業風景 (南西から)



8. T11 西側コンクリート基礎 (東から)

写真図版3 砂押遺跡(1)、白石城跡(2、3)、白石城三の丸跡(4～8)



1. T12 作業風景 (東から)



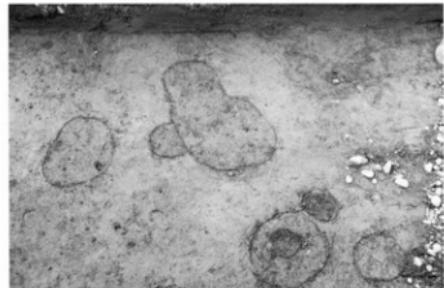
2. T12 P1~8 (南から)



3. T12 の P2 断面 (南から)



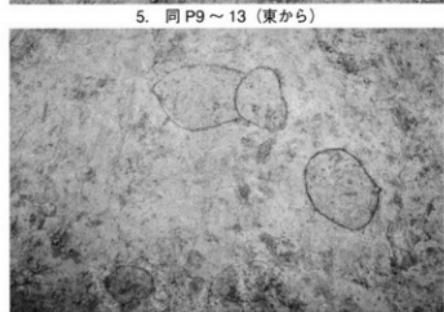
4. 同 P6 青銅製品出土状況 (東から)



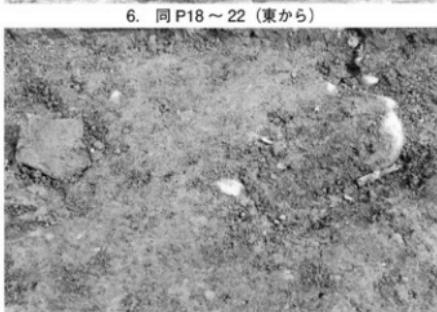
5. 同 P9~13 (東から)



6. 同 P18~22 (東から)



7. 同 P29~32 (東から)



8. 同 P28 振鉢と釘出土状況 (西から)

写真図版 4 白石城三の丸跡



1. T13 P1～5 (北から)



2. T18 全景 (南東から)



3. T18 P1 断面 (西から)



4. T19 P1～12 (西から)



5. T19 溝状遺構



6. T19 SD1～3 (南から)



7. T20 全景 (東から)



8. T20 のピット (南から)

写真図版 5 白石城三の丸跡



1. T21 全景（南から）



2. 同 P5 付近（東から）



3. T22 全景（北から）



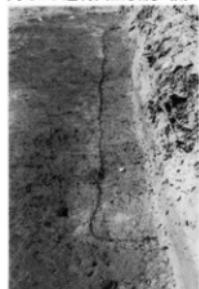
4. 同 P1（北から）



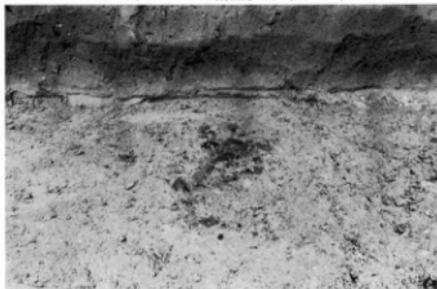
5. 同 SD3 遺物出土状況（南から）



6. 同 SD5～6 精査状況（南から）



7. SD11 検出状況（南から）



8. SD11 の北 焼土検出状況（西から）

写真図版 6 白石城三の丸跡



1. 大畠遺跡旧状（西から）



2. 同（西から）



3. 同（北から）



4. 同（北から）



5. 調査トレンチ T2（西から）



6. 調査トレンチ T3（西から）



7. 調査トレンチ T4（南から）

写真図版7 大畠遺跡



1. 近景（東から）



2. 近景（西から）



3. 樹木 1（西から）



4. 樹木 2（南から）



5. 樹木 3 拡部



6. 樹木 4

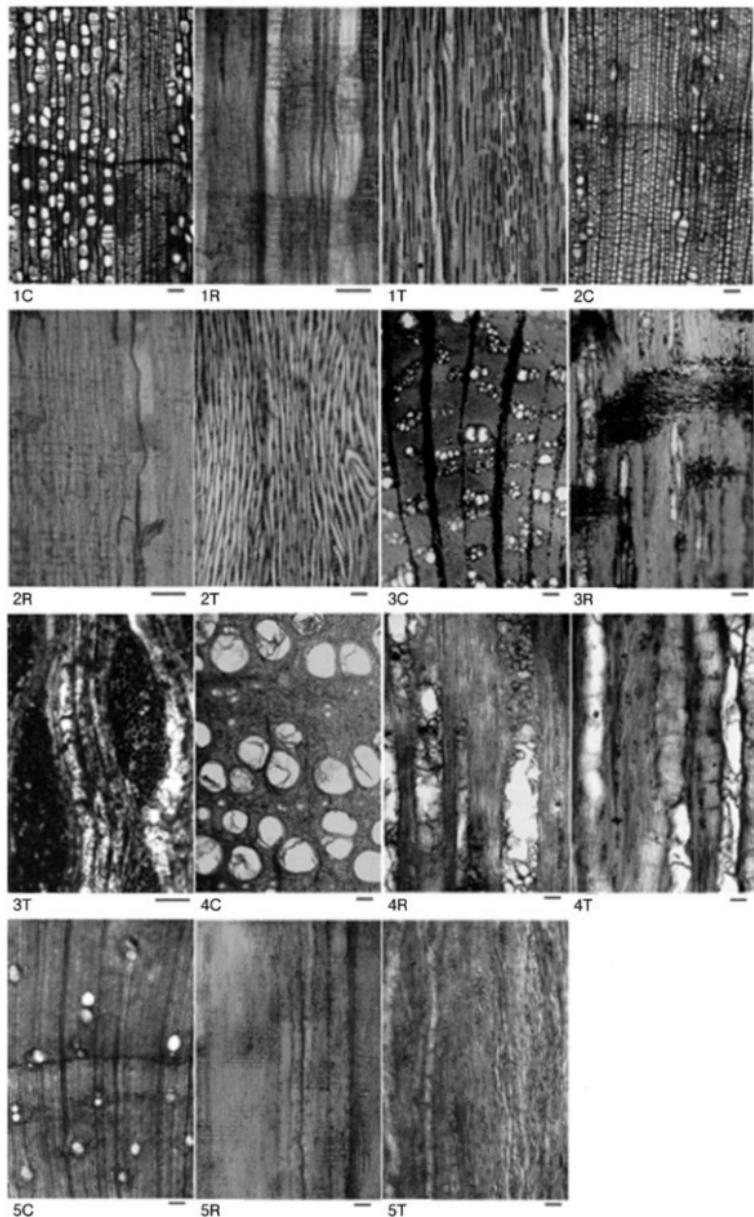


7. 樹木 5



8. 樹木 6 拡部

写真図版 8 馬牛沼遺跡



写真図版9 馬牛沼埋没樹の顕微鏡写真

1-2.ハンノキ属ハンノキ筋(1:幹材(樹木4)2:根材(樹木5)) 3.ケヤキ根材(樹木1) 4-5.トネリコ属(4:幹材(樹木3)5:根材(樹木2)) C:横断面R:放射断面T:接線断面、スケール=0.1mm



1. 大烟遺跡出土 高杯



2. 大烟遺跡出土 高杯



3. 大烟遺跡出土 瓦、土師器



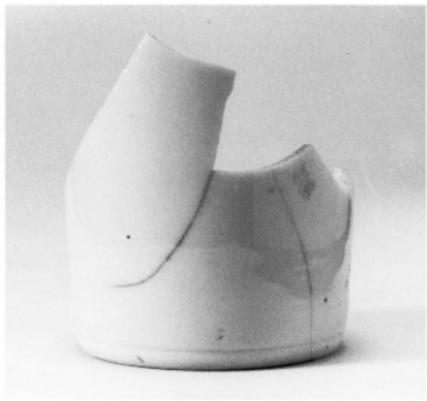
4. 大烟遺跡出土 瓦凹面



5. 砂押遺跡出土 錢貨



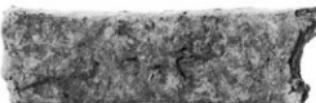
6. 白石城跡出土 かわらけ



1. 白石城跡出土 煙徳利



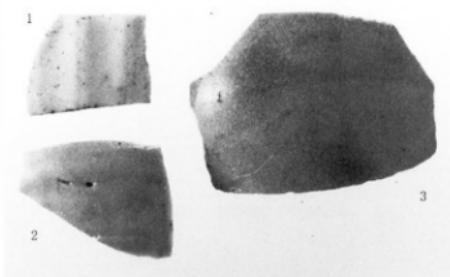
3. 白石城三の丸跡出土 具器手碗



4. 白石城跡出土 小柄



2. 同 底面



6. 白石城跡出土 陶磁器

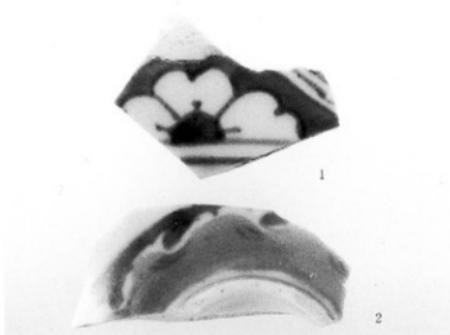


1



2

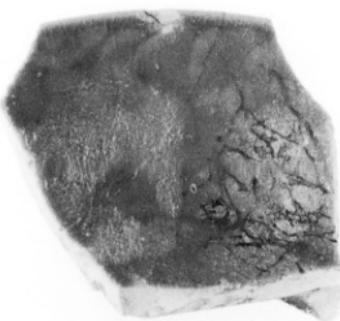
5. 白石城三の丸跡出土陶器



7. 白石城跡出土 磁器



1. 白石城三の丸跡出土 青磁（外面）



2. 同左（内面）



3. 白石城三の丸跡出土 石製鉢（外面）



4. 同左（内面）

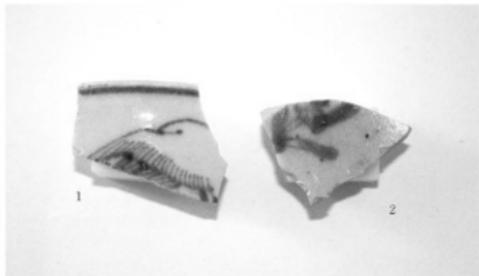


5. 白石城三の丸跡出土 丸瓦（外面）



6. 同左（内面）

写真図版 12 出土遺物（3）



1. 白石城三の丸跡出土 磁器



2. 同 磁器



3. 同 陶磁器



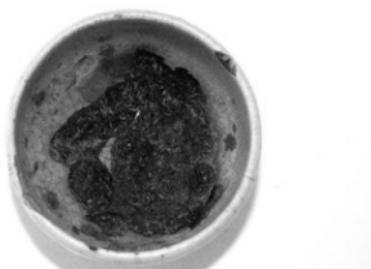
4. 同 織部 (外面)



5. 同 小杯 (側面)



6. 同上 (内面)



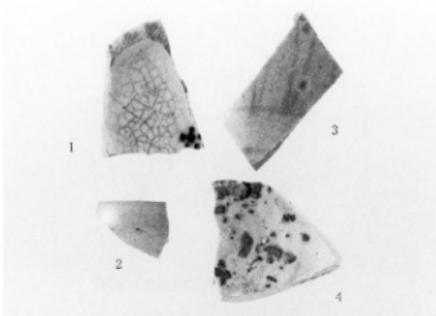
7. 同 小杯 (上から)



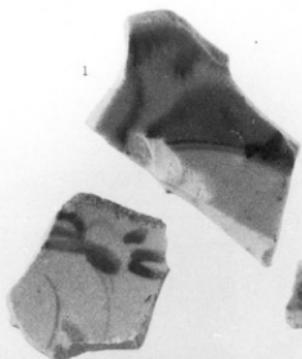
8. 鬼瓦片



1. 白石城三の丸跡出土 陶器



2. 同 陶磁器



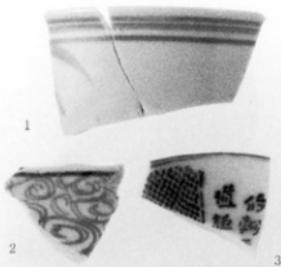
3. 同 磁器



4. 同 3-1 の外面



6. 同 青銅製品



5. 同 磁器



7. 同 長方形の容器



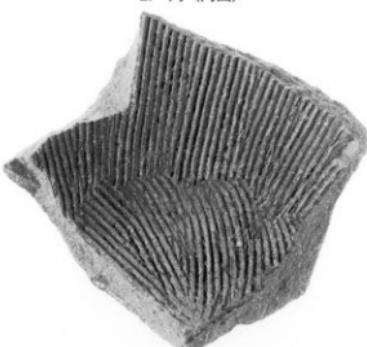
1. 白石城三の丸跡出土 軒丸瓦（外面）



2. 同（内面）



3. 同 摺鉢（外面）



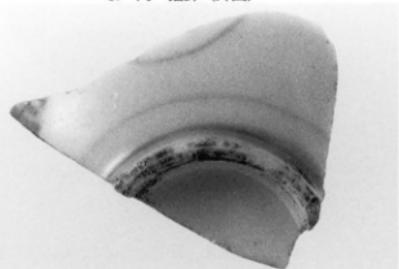
4. 同（内面）



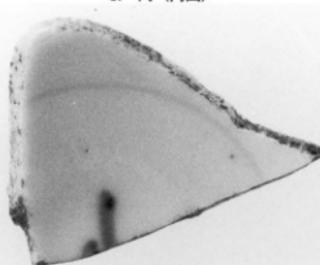
5. 同 摋鉢（外面）



6. 同（内面）



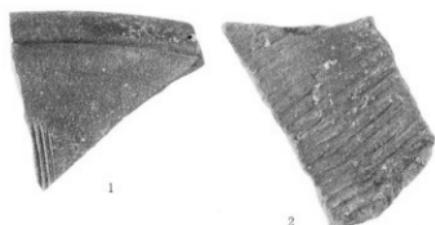
7. 馬牛沼遺跡出土 磁器（外面）



8. 同（内面）



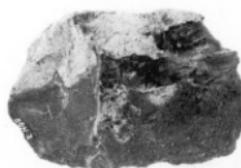
1. 馬牛沼遺跡出土 土師器、中世陶器



2. 同 摧鉢、須恵器



3. 同 摧鉢



4. 同 石核、剥片



5. 兀山遺跡 表探瓦



6. 兀山遺跡 表探瓦

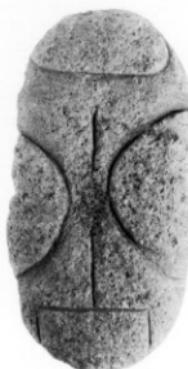
写真図版 16 出土遺物 (7)、関連遺物 (1)



1



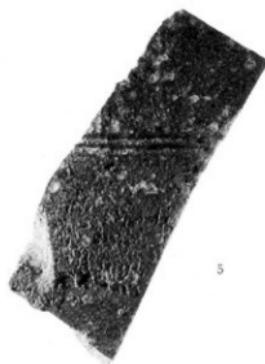
2



3



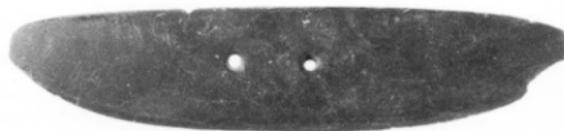
4



5



6



7

写真図版 17 関連遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさほうこくしょろく									
書名	市内遺跡発掘調査報告書6									
副書名										
巻次										
シリーズ名	白石市文化財調査報告書									
シリーズ番号	第41集									
編著者名	日下和寿、株式会社加進器分析研究所、古代の森探究室(吉川純子)									
編集機関	白石市教育委員会									
所在地	〒989-0206 宮城県白石市寺屋敷町25番地6 TEL:0224(22)1343									
発行年月日	西暦2011年11月30日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	発掘調査面積 m ²	調査原因			
大畑遺跡	市町村 白石市字東大畑88	04206	02262	38°00'31"	140°37'42"	20100308～ 20100413	24.24 宅地造成			
矢ノ口一里塚	市町村 白石市大慶沢大町 矢ノ口1/1	04206	02447	37°58'55"	140°41'08"	20100517～ 20100527	624.00 埋蔵文化財 の有無確認			
渠下遺跡	市町村 白石市福岡深谷字下闘 5-1ほか	04206	02081	38°02'48"	140°37'50"	20100618	45.45 個人住宅 建設			
白石城跡	市町村 白石市益岡町55-15	04206	02197	38°00'04"	140°36'56"	20100706～ 20101111	12.48 連絡道路 建設			
白石城二の丸跡	市町村 白石市浜端町75	04206	02448	38°00'15"	140°36'58"	20101012～ 20110722	858.79 グランド 整備工事 参考			
本郷遺跡	市町村 白石市字堂前32番3、 32番4の一部ほか	04206	02121	38°00'14"	140°37'31"	20100820	16.92 個人住宅 建設			
本郷遺跡	市町村 白石市字御町16	04206	02121	38°00'00"	140°37'23"	20110307	19.00 閑居建設			
砂押遺跡	市町村 白石市人形町大町字佐野 道152	04206	02397	37°59'25"	140°39'15"	20100318～ 20100517	35.04 確認確認			
馬牛沼遺跡	市町村 白石市蘆川字馬牛	04206	02449	37°56'53"	140°36'29"	20101122～ 20101129	0.00 埋蔵文化財 の有無確認			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項					
大畑遺跡	散布地 官衙	古代	礎石建物跡 壁穴作居跡	土師器、須恵器	官衙中心域の一部が確認された。					
矢ノ口一里塚	塚	近世	～型塚	なし	一里塚1基が確認された。市内で現存する唯一の一里塚である。					
渠下遺跡	散布地	縄文	ピット 風呂木楓	縄文土器、洞片	遺物散布が確認された。					
白石城跡	城郭	近世、近代	整地層	陶磁器、金属製品	近代以降の整地層が確認された。					
白石城三の丸跡	城館	近世、近代	ピット、溝跡	陶磁器、金属製品	三の丸跡に遺構の拡がりが確認された。					
本郷遺跡	散布地	古代、近世	ピット	土師器、陶磁器	遺物散布が確認された。					
砂押遺跡	散布地	古代	なし	土師器、陶磁器	遺物散布が確認された。					
馬牛沼遺跡	散布地	古代～近世	埋没林	土師器、須恵器 中世陶器、近世陶磁器	沼底で縄文時代及び古代の埋没林が確認された。					
要約	大畑遺跡では、礎石建物の一部、弊穴住居跡が確認され、土師器、須恵器が出土した。矢ノ口一里塚では、一里塚1基、街路跡が確認された。塚下遺跡では、縄文土器、洞片が出土し、時期不明のピット1基、黒陶1基が発見された。									
	白石城跡では、近代以降の盛土が確認された。白石城二の丸跡では、多数のピット、溝状遺構が確認された。陶磁器、瓦片、金属製品が出土した。紅状のものが付着した陶磁器も出土している。									
本郷遺跡では、土師器が出土し、時期不明のピットが発見された。遺跡範囲が広範囲に広がっていることが判明した。砂押遺跡では、ピットが確認された。馬牛沼遺跡では、古代と縄文時代に測る坪没林と土師器、須恵器、中世陶磁器が発見された。										

白石市文化財調査報告書 第41集
市内遺跡発掘調査報告書6

平成23年11月30日印刷

平成23年11月30日発行

編集・発行 白石市教育委員会
〒989-0206 宮城県白石市字寺原敷前25番地6
電話:0224(22)1343

印 刷 株式会社佐々木印刷所
〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区日の出町2丁目2番16号
電話:022(236)1281
